



東京ベイeSG まちづくり戦略 2022

Tokyo Bay eSG
Urban Development
Strategy 2022



令和4(2022)年3月

東京都

東京ベイeSG まちづくり戦略 2022

Tokyo Bay eSG
Urban Development
Strategy 2022

ベイエリアで東京の次なる ステージの都市づくりをリードしていく

昨年4月、東京を次なるステージに導くための未来への投資、その象徴の一つとなる「東京ベイeSGプロジェクト」を公表しました。

先見性と確固たる信念のもとにビジョンを描き、未来を見据えた都市づくりによって東京の礎を築いてきた偉大な先人である渋沢栄一や後藤新平の精神を受け継ぎ、50年・100年先の未来の都市像を描いています。

今、世界は、激動の最中にあります。脱炭素やデジタル化の潮流は、大きなうねりとなっています。持続可能な回復「サステナブル・リカバリー」を遂げるための取組を力強く推し進め、世界から選ばれる都市へと進化することが、東京の果たすべき使命です。

この「東京ベイeSGまちづくり戦略2022」は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の感動の舞台ともなったベイエリアの全域を対象に、eSGプロジェクトで描いた未来の都市像からバックキャストした2040年代のベイエリアを実現するための実行戦略です。

多様な魅力をもつ各拠点の特性を生かして、サステナブルな次世代都市を世界に先駆けて創り上げる、その具現化に向け、「質の高い緑と魅力ある水辺空間の形成」、「防災減災対策の推進」、「デジタルと先端技術の実装」、「にぎわい・交流・イノベーションを生むまちの実現」、「まちの魅力と活動の基盤となる移動手手段の充実」の5つの戦略を示しました。

戦略をもとに様々な主体との連携を深めながら、基盤整備を進めると同時に、民間の創意工夫を生かした都市開発を誘導するなど、具体的な取組でベイエリアの将来像を実現します。ここに示した取組をスピード感と実行力をもって社会実装につなげ、その過程で生じた課題にアジャイルに対応することで内容をさらに高めていきます。

都民の皆様と共に、世界のモデルとなる未来の都市づくりを強力に推進し、東京の国際競争力を押し上げ、ひいては日本の持続可能な発展につながる未来への行動を加速させてまいります。

令和4(2022)年3月



東京都知事

小池百合子

00

海と緑の環境に調和した サステナブルな次世代都市として ベイエリアを次なるステージへ

— P.006

Bay Area to the Next Stage Coexisted
with Nature As a Sustainable Next-Generation city

01

2040年代の ベイエリアの将来像

— P.014

Future image of the Bay Area in the 2040s

02

バックキャストで描く ベイエリアの戦略

— P.026

Bay Area strategy Drawn in Backcast

03

個別の拠点の将来像

— P.062

Individual vision for each area

04

東京ベイeSG まちづくり戦略の進め方

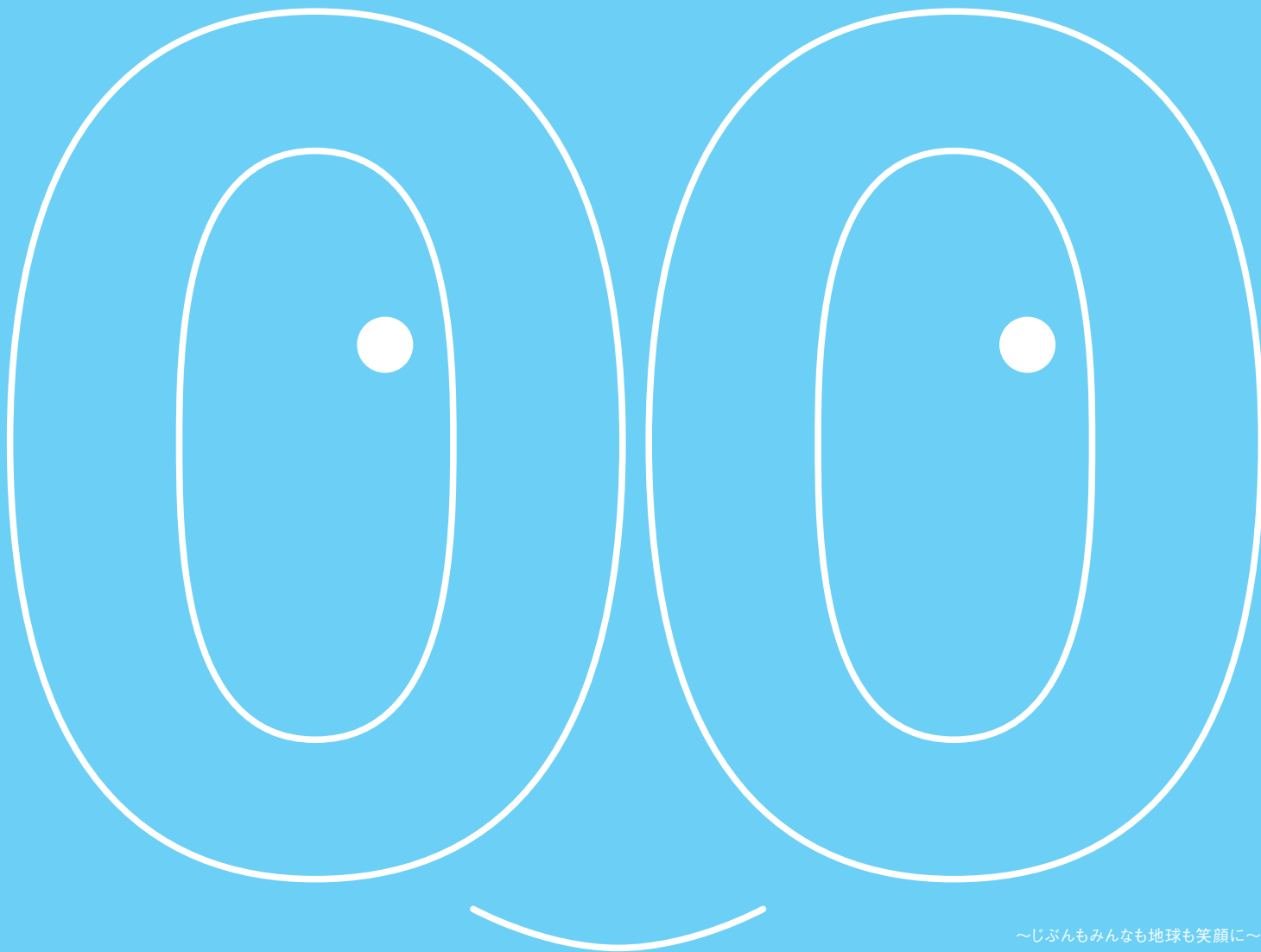
— P.078

Toward realization of Tokyo Bay eSG
Urban Development Strategy

[附属資料]

— P.092

- 東京ベイeSGまちづくり戦略の位置付けについて
- 有識者の意見及び提案の概要
- パブリックコメント等
- SDGsの目線で政策を展開する
- 東京2020大会の成果を都市の発展につなげる
- ゼロエミッション東京を目指し、地球環境と調和を図り、持続的に発展させていく



～じぶんもみんなも地球も笑顔に～

海と緑の環境に調和した サステナブルな次世代都市として ベイエリアを次なるステージへ

Bay Area to the Next Stage Coexisted
with Nature As a Sustainable Next-Generation city

東京ベイeSG まちづくり戦略 2022について

～未来から選ばれる都市を創る～

About
Tokyo Bay eSG
Urban Development
Strategy 2022

都は、2021年4月に「臨海副都心」と「中央防波堤エリア」を舞台として50年・100年先の未来の都市像を描いた「東京ベイeSGプロジェクト」(Version1.0)を公表した。

今般策定した「東京ベイeSGまちづくり戦略2022」は、「ベイエリア全域」を対象エリアとしており、eSGプロジェクトの具現化を下支えし、未来の都市像からバックキャストした2040年代のベイエリアを実現するための実行戦略である。

東京2020大会が成功に終わり、新たなステージへと移る東京の都市づくりについて、ポストコロナを見据え、グリーンとデジタルを基軸として、「都市づくりのグランドデザイン」を踏まえ、サステナブル・リカバリーの考え方に立脚した次世代の都市づくりを進めていくための行政の取組や民間誘導の方策を示している。

※eSGとは、本来の「eSG」(環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の概念に加え、eには、生態学などのエコロジー、経済のエコノミー、画期的・革新的のエポックメイキングの意味を込め、さらにはSとGには、東京の礎を築いてきた偉大な先人である渋沢栄一や後藤新平のイニシャルの意味を加えて、その精神を受け継ぐ想いも込められている。

戦略・取組の記載の特徴

【特徴1】 主要施策

有識者の意見、提案など、50年・100年先を見据た2040年代のベイエリアのあるべき姿、今後の20年～30年間で取り組むべき都市づくりの方向性を反映している主要な取組を記載。

【特徴2】

こどもの目線に立ったまちづくりの観点から、ベイエリア内の小中高生を対象に実施したWEBアンケート結果より、関心の高かったベイエリアへの希望や大切にしたいことについて、メダルの数で表現し、その実現に向けた取組が分かるように記載。

【特徴3】 A B C

まちづくりの実行戦略として、各取組について実現を目指す時期を示す区分A～Cを明記(区分の詳細2章に記載)。

【特徴4】 T

東京2020大会の様々の成果を都市のレガシーへと発展させ、未来につなげていく取組を明示。

【特徴5】

ゼロエミッション東京戦略で掲げる6分野・14政策に関連するCO₂の排出削減、気候変動被害の回避・軽減を図る取組を明示。

ベイエリアが果たすべき 役割・使命について

主な社会背景

東京2020大会の成功

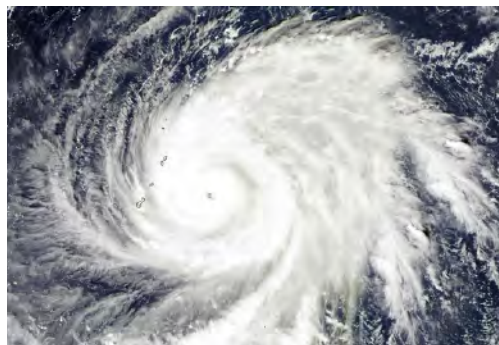
多くの困難を乗り越えて成功裏に終えた東京2020大会は、東京の都市としての成熟度を大きく高めるものとなった。

都は、大会を通じて生み出した様々な成果を都市のレガシーへと発展させていく新たなステージに立っている。



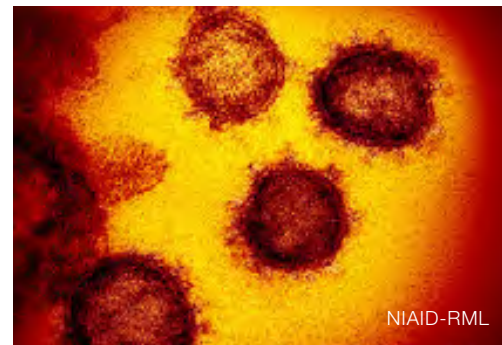
気候危機

IPCCは、2100年における世界の平均海面水位は地上平均気温が約2°C上昇の場合、最大で0.59m上昇すると予測している。気候変動の影響により頻発化・激甚化する風水害などから命を守る万全の危機管理は、都の最も基本的な責務であり、誰もが活躍するための大前提である。



新型コロナ危機

新型コロナ危機は、テレワークやデジタル化の進展など経済・社会への影響とともに、人々の生活等への意識にも変化をもたらした。都市の持つ集積のメリットは生かしつつも、個々の生活レベルでの三密を回避し、新しい日常にも対応するサステナブル・リカバリーの考え方に立脚した都市づくりを推進する必要がある。



バイエリアで東京の次なるステージの都市づくりをリードしていく

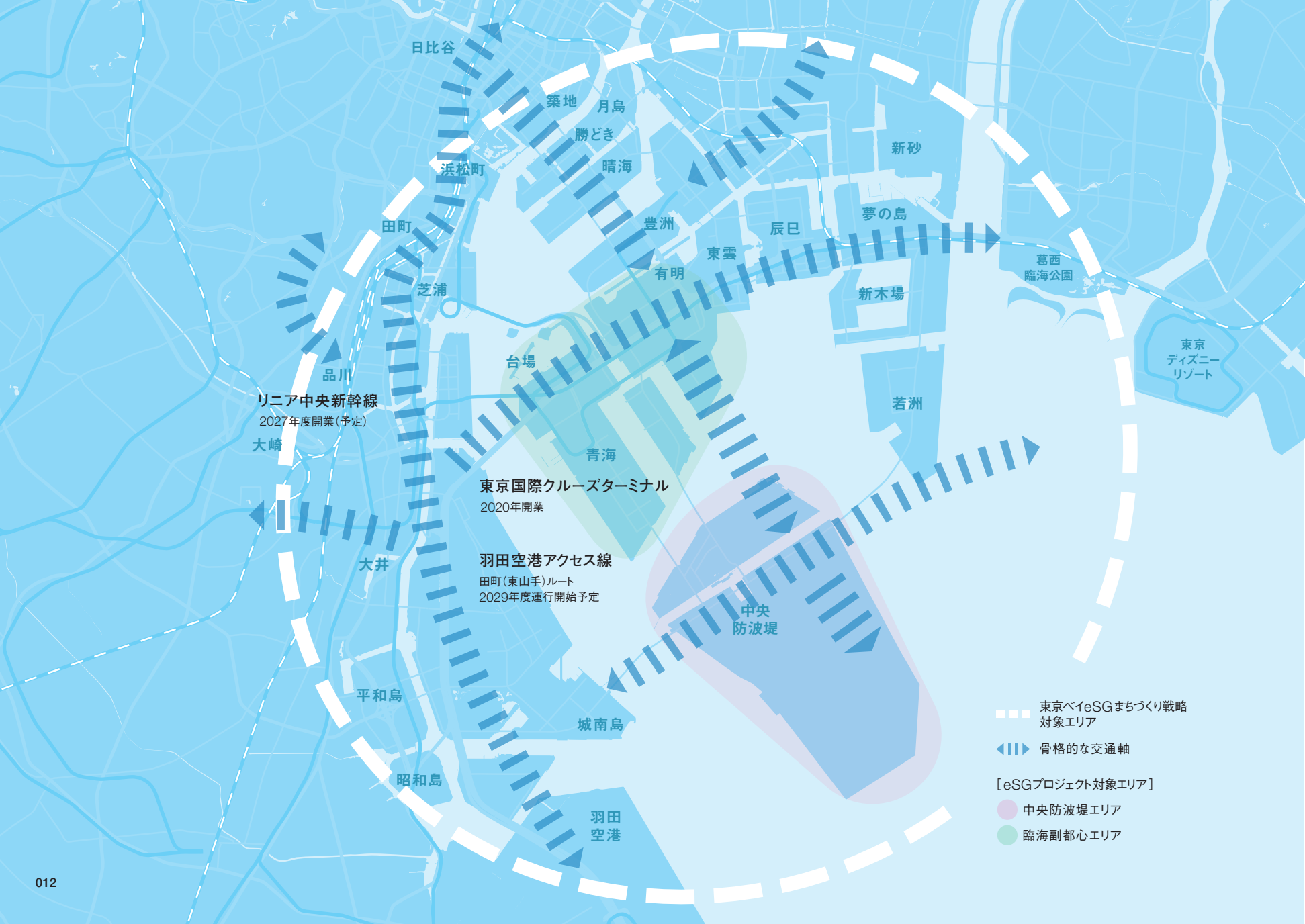
東京の役割

国家の競争力を決定づけるのは、世界から選ばれる都市の存在であり、それこそが首都・東京の役割

東京の使命

命を守る万全の危機管理を大前提として、多様な集積を源泉に、常にイノベーションを生み出す都市として成長を続け、国の発展を牽引することが東京の果たすべき使命

バイエリアは、気候危機に対応し、海と緑の環境に調和した持続可能な次世代都市として、世界から人と投資を呼び込み、成長と成熟が両立した持続可能な都市・東京を先導するエリアとして発展していく。



リニア中央新幹線
2027年度開業(予定)

東京国際クルーズターミナル
2020年開業

羽田空港アクセス線
田町(東山手)ルート
2029年度運行開始予定

- 東京ベイeSGまちづくり戦略対象エリア
- ▬▬▬ 骨格的な交通軸
- [eSGプロジェクト対象エリア]
- 中央防波堤エリア
- 臨海副都心エリア

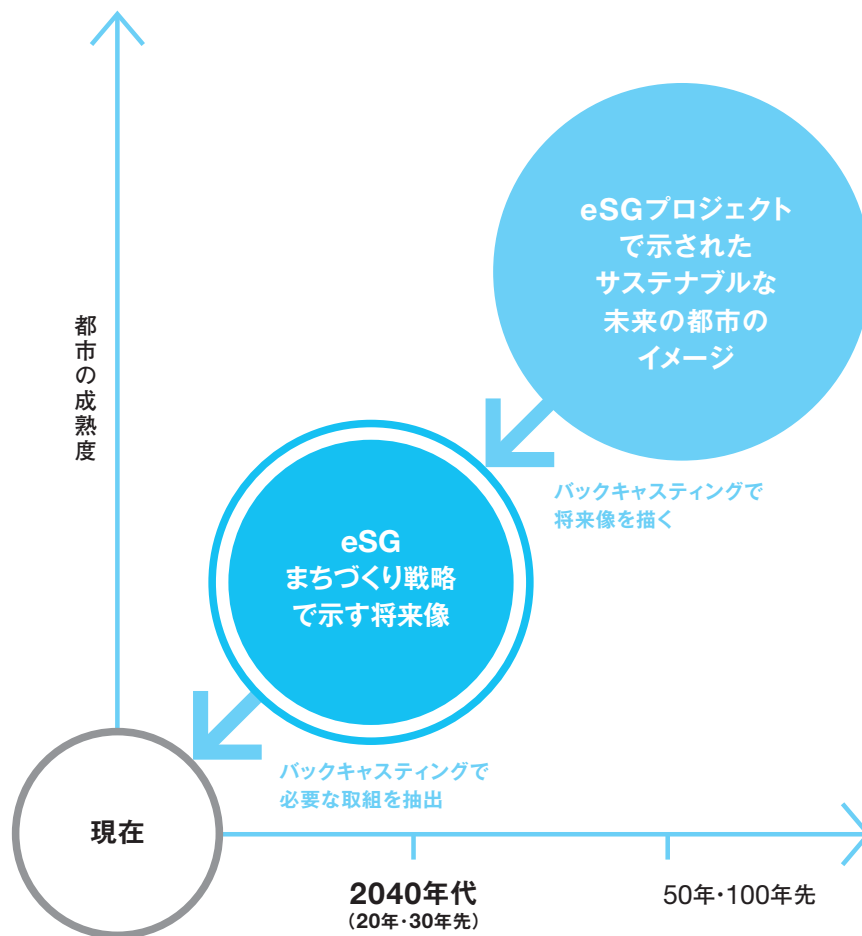
対象エリアと将来像・ 取組の考え方

[ベイエリアの範囲]

- 概ね明治以降の東京の埋立地を基本とし、下記の道路より海側を対象エリアとする。
- 北側:放射16号(永代通り)
- 西側:首都高速都心環状線、放射19号(旧海岸通り及び第一京浜)、放射17号(産業道路)

[将来像と取組]

- 50年・100年先において未来の都市像を実現するための20年・30年先(2040年代)の将来像
- 2040年代の将来像を実現するために、現在から実施すべき必要な取組



2040年代の ベイエリアの将来像

Future image of the Bay Area
in the 2040s

気候危機への対応がスマートに埋め込まれ、
水辺と緑を生かす、ひとに快適な距離感が心地よい空間のイメージ

都市空間イメージの解説(キープラン)



- ① レストランや観光資源など、魅力ある水域の活用
- ② ひと中心の空間への再編による水際へのアクセス・親水性の向上
- ③ 開発機会も活用したみどりの質と量の充実
- ④ 誰もが自由に移動できる回遊性を確保する次世代モビリティなど、テクノロジーの実装
- ⑤ 民間と協同した東京らしさを感じる空間の創出(四季、建築、食、歴史、文化、風物詩)
- ⑥ 建築物は、水辺を向いてにぎわいを創りつつ、激甚化する風水害から命を守る備えとなる高さを確保





立体的な緑が充実した木造ビル群と、まちに溶け込む快適距離感で
にぎわいあふれるオープンスペースのイメージ

都市空間イメージの解説(キープラン)



- ① 周辺のまちとのつながりや、高さ・密度・四季の変化などに配慮した質の高いみどりの充実
- ② 木質材を使用した建築物の誘導や立体的なみどりの充実による都市の脱炭素化の推進
- ③ ひとが心地よさを感じる程よい空間の創出、目的地となるアクティビティの誘導
- ④ 非接触パネル、自動配送ロボ、自動運転キッチンカーなど、テクノロジーの実装
- ⑤ 民間と協同した東京らしさを感じる空間の創出
(四季、建築、食、歴史、文化、風物詩)





ライトアップやプロジェクションマッピングなどによる
ひとを惹きつける魅力ある夜の都市空間イメージ

都市空間イメージの解説(キープラン)



- ① 建物やみどりのライトアップによる魅力ある夜景の演出
- ② ウォータースクリーン・プロジェクションなど、デジタルも活用した夜のにぎわいの創出
- ③ 自動運転キッチンカーや野外コンサートなど、ナイトライフの充実
- ④ キャンプサイトなど、ひとが居心地のよい安らぎある空間の創出
- ⑤ 民間と協同した東京らしさを感じる空間の創出(食、風物詩)

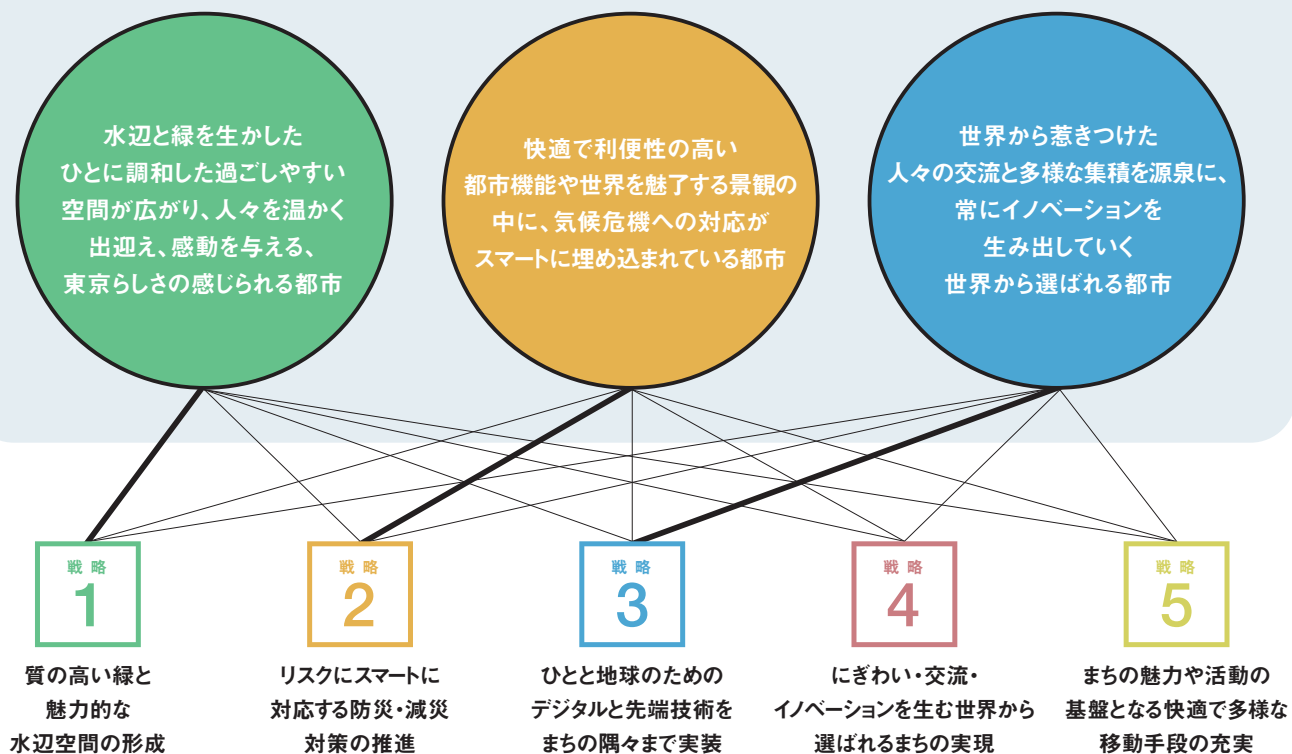




未来の東京の実現に向けた ベイエリアの将来像

[将来像]

サステナブル・リカバリーの考え方に立脚した都市





東京らしさを感じられる空間のイメージ



文化に触れる



歴史に触れる



東京ならではの食す





東京を感じる
空間でお出迎え



風物詩を体験する



バックキャストで描く ベイエリアの戦略

Bay Area Strategy Drawn
in Backcast

サステナブル・リカバリーの視点に立ち 将来像を実現するための戦略

戦略

1

質の高い緑と魅力的な 水辺空間の形成

自然を感じられ、
ゆとりと潤いのある都市へと進化する

この戦略が関係する主なSDGs



この戦略に関係するゼロエミッション東京戦略の推進に資する取組



戦略

2

リスクにスマートに対応する 防災・減災対策の推進

いかなる災害からも
都民を守る

この戦略が関係する主なSDGs



この戦略に関係するゼロエミッション東京戦略の推進に資する取組



戦略

3

ひとと地球のためのデジタルと 先端技術をまちの隅々まで実装

都民の生活の質が高まり、
都市の脱炭素化が実現する

この戦略が関係する主なSDGs



この戦略に関係するゼロエミッション東京戦略の推進に資する取組



本章では、誰もが夢と希望を持ち、豊かな生活を実感できる都市であり続けるために明るいベイエリアの将来像の一端を示します。
良質な住環境や既存施設にも配慮しつつ、東京の次なるステージの都市づくりをリードしていきます。

戦略 4

にぎわい・交流・イノベーションを 生む世界から選ばれるまちの実現

多様な魅力に磨きをかけ
世界を魅了する

この戦略が関係する主なSDGs



戦略 5

まちの魅力や活動の基盤となる 快適で多様な移動手段の充実

人やモノの自由な移動を支える
交通ネットワークを構築する

この戦略が関係する主なSDGs



この戦略に關係するゼロエミッション東京戦略の推進に資する取組



Barangaroo(シドニー):レンドリース株式会社提供
魅力ある水辺の空間整備



Hunters Point South Park (ニューヨーク)
グリーンインフラの護岸整備



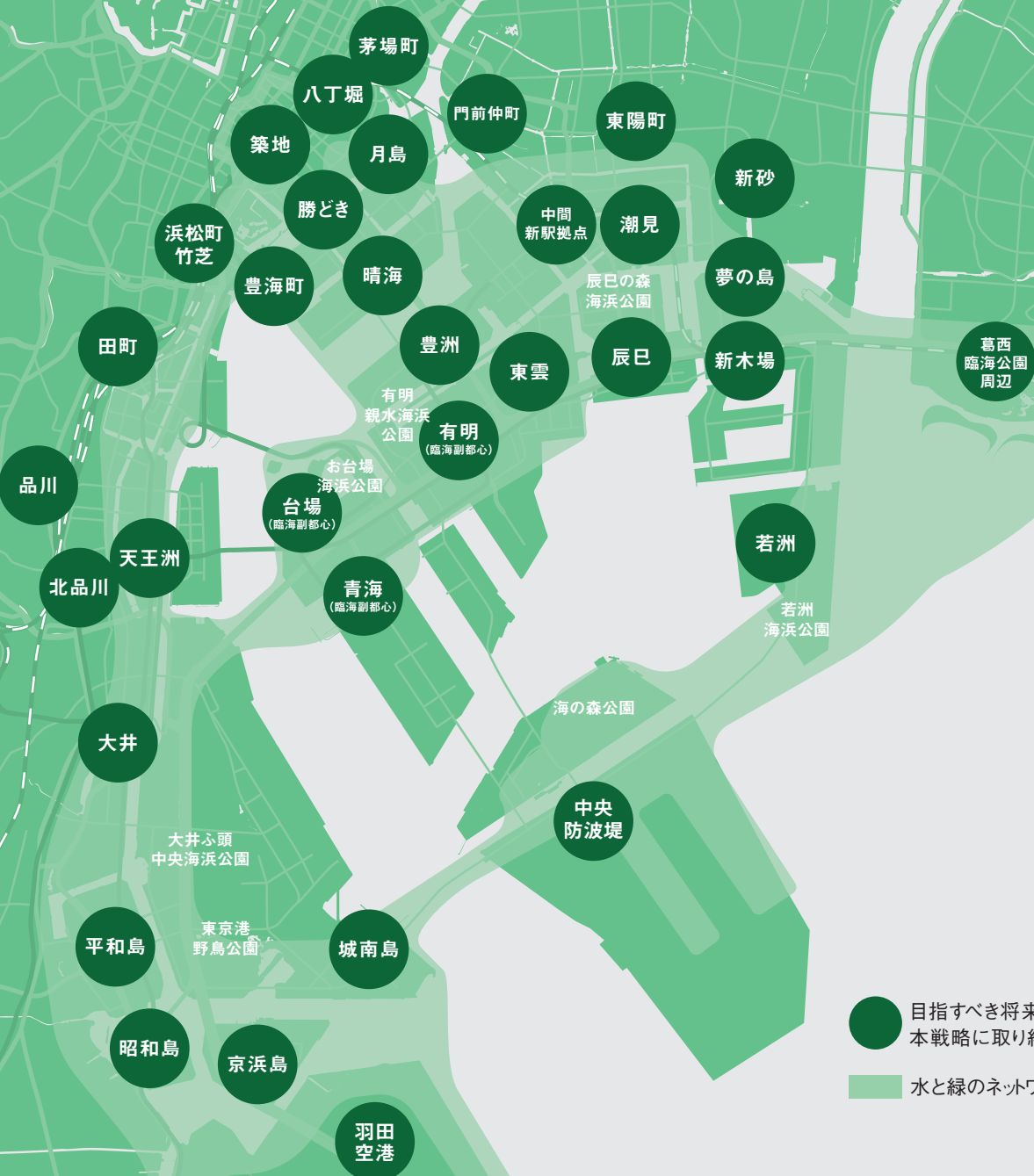
海上の研究施設イメージ



舟運の活性化(出典:官民連携チーム提案書)

戦略

1



● 目指すべき将来像の実現に向け本戦略に取り組む主な拠点

■ 水と緑のネットワーク

1 質の高い緑と魅力的な水辺空間の形成

[東京2020大会のレガシーを発展させ、水と緑に親しみ憩いと安らぎが感じられるまちを形成] 🌞🌞🌞

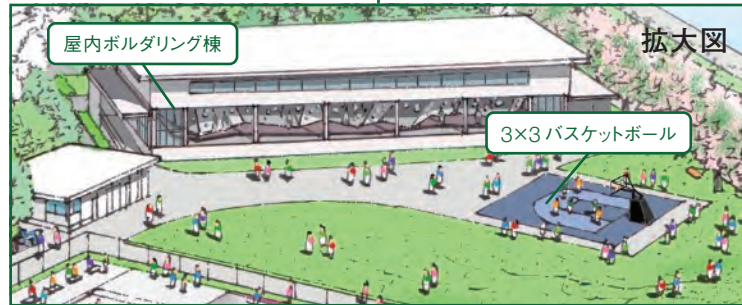
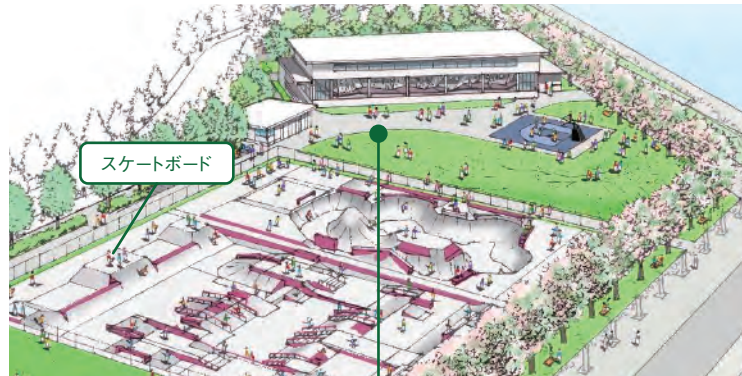


東京2020大会の競技会場周辺で散策ルートや水辺の親水空間が整備された都市環境が形成 **A** **T**



(海の森公園:令和6年度末工事完了予定)

海の森水上競技場及び海の森公園は、自動運転のモビリティや舟運などによるアクセス向上が図られ、ベイエリアの海と緑と都市を一望する壮大な景観が眺められる新たなにぎわいの拠点として一体的に活用 **A** **T**



有明アーバンスポーツパーク(仮称)大会レガシーゾーンのイメージ

大会時の仮設競技施設を活用した大会レガシーゾーンなど、都市型スポーツの場である有明アーバンスポーツパーク(仮称)を含め、大会の感動・記憶を形に残し、広くスポーツに親しむ大会開催を記念する公園の整備 **A** **T**

[まちに潤いを与える水辺空間を形成する] 🌞🌞🌞

葛西臨海公園駅の周辺では、ラムサール条約湿地の登録地として、野鳥や水生生物等の貴重な生息地である干潟が保全。また、今後整備される新たな水族園や利活用が想定される既存施設、海水浴体験ができるなぎさなどの多様な施設が充実(新水族園:令和10年3月供用開始予定) 🌱🌊



生物多様性が豊かで身近に触られる干潟の重要性や魅力の発信、環境学習などの多様な活動の場の提供の推進(竹芝の干潟や葛西海浜公園ビクターセンター(仮称)など) 🌱🌊



令和元(2019)年度お台場ブラージュ(海水浴):港区提供

グリーンTechによる水質改善の取組等を後押しし「泳げる東京湾」の実現に向けた取組を推進 🌱

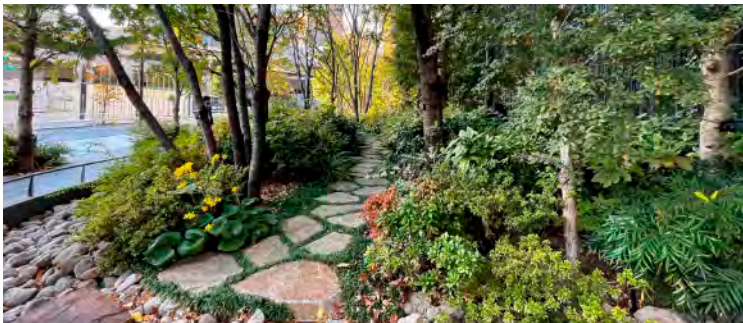
外濠浄化の推進は、下流の日本橋川、隅田川、さらにはベイエリアの水質改善にも一定の効果を見込んでおり、水質改善に向けた他の取組ともあいまってまちに潤いを与える水辺空間を形成 🌱

合流式下水道の改善により、雨天時に合流式下水道から放流される汚濁負荷量を削減するため、降雨初期の特に汚れた下水を貯留する施設の整備等を推進 🌱🌊

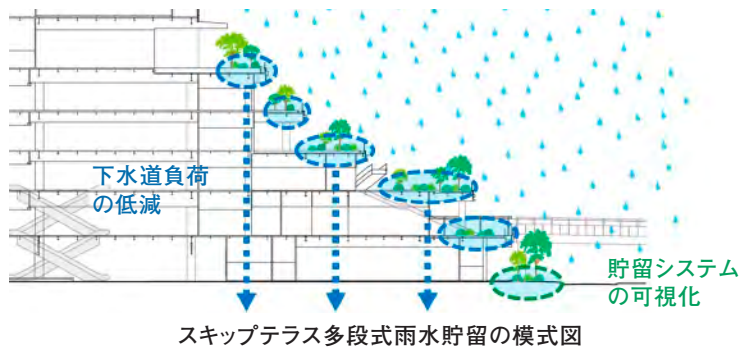
既存の海上公園等に隣接する開発計画において、緑やオープンスペース等の連続性の拡充などを誘導 🌱

1 質の高い緑と魅力的な水辺空間の形成

[水の恵みを楽しむことができる良好な水循環を実現する]

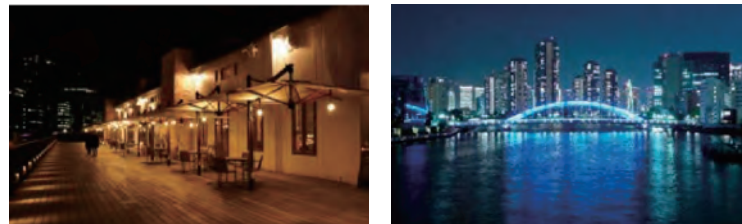


東京ポートシティ竹芝レインガーデン



地区の環境性能等の向上に貢献するグリーンインフラや、その考え方を導入したエリア開発の誘導により、東京全体の良好な水循環の実現に資するよう、開発計画に合わせた雨水の貯留、活用や公園などの浸透域の維持・拡大などを促進し、都市が有する水資源の都市活動への活用や都市の潤いに貢献 [A](#)

[東京の新たな魅力となる美しいまちを創る]



文化・交流分野における都市力の向上にも資するナイトライフの充実や観光資源ともなる魅力的な夜間景観の演出に資するライトアップを促進 [A](#)



芝浦一丁目プロジェクト

海はベイエリアの強み・観光資源との観点から、ひとを迎える空間としても海を生かし、水上バスなど、海からの眺望にも配慮し、海側に開かれた建物や緑も誘導しながら、海から東京に入ってくる最初の景色を提供するベイエリアにしかない東京の新たな魅力となる景観を創出 [A](#)



海の森公園において音楽フェスや自然観察など立地や環境を生かしたイベントなどにより、自然に親しむ新たなにぎわいを創出 **A**




海をより身近に感じられる景観づくりのほか、例えば緑や花にあふれたメモリアルな空間や、まちの歴史と将来像を展示する施設など、バイエリアに生涯愛着を持ち、ローカルなつながりを実感できる環境づくりを促進 **C**



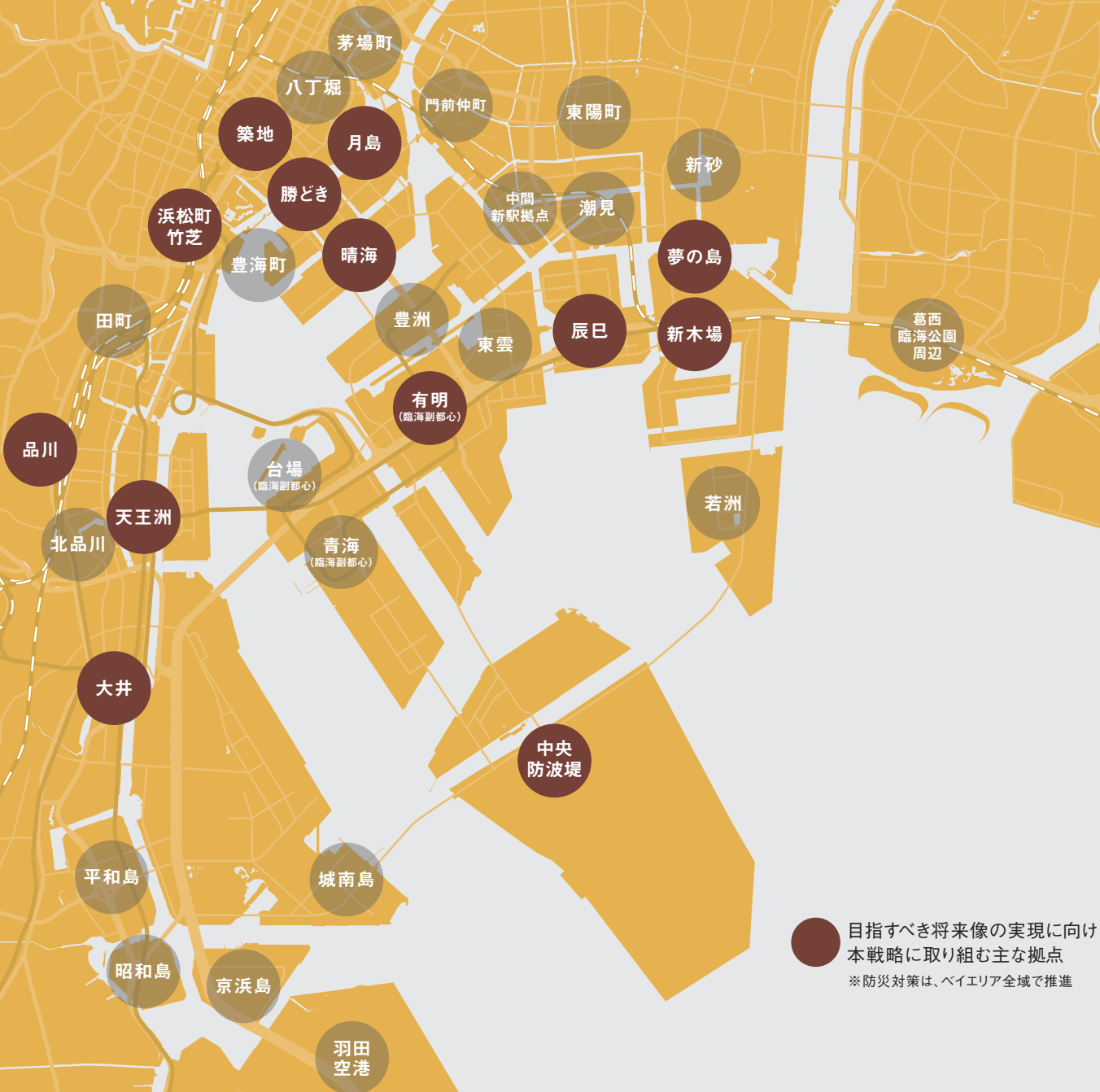
旧晴海鉄道橋の遊歩道への利用転換など、土木遺構の維持保全・活用により、まちと歴史が調和した良好な景観の創出を推進 **A**

歩行者デッキ等により幹線道路等によるエリア分断を解消し、回遊性の高いウォーカブルなまちづくりを促進 **A**

海上公園や街路樹などにおいて、在来種の積極的な導入や外来種の除去など、生物多様性保全に配慮した取組を推進 **A** 

戦略

2

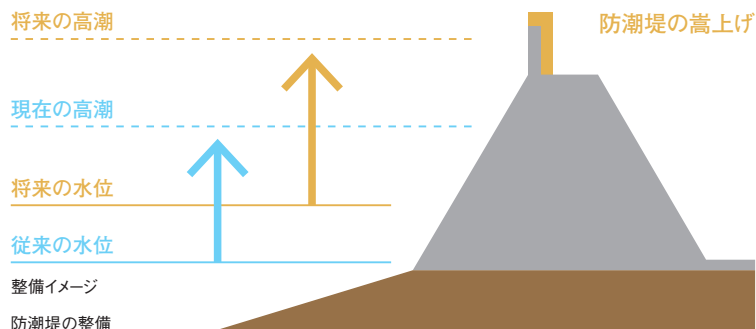


● 目指すべき将来像の実現に向け
本戦略に取り組む主な拠点
※防災対策は、ベイエリア全域で推進

リスクにスマートに対応する 防災・減災対策の推進



[気候変動を踏まえた高潮対策等を加速する] 🏆🏆🏆



水門・排水機場

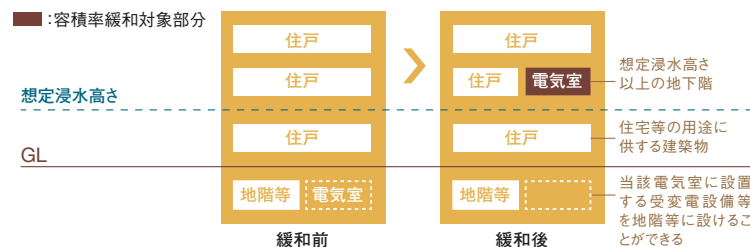
東京港については、気候変動を踏まえた高潮・津波対策として、「東京港海岸保全施設整備計画」を改定し、今後予想される海面水位上昇等に備え、防潮堤の嵩上げを実施するなど、防潮堤・内部護岸や排水機場等の整備を着実に推進し、高潮・津波への対策を一層強化 **B** **C**

河川については、気候変動の影響による降雨量の増加や海面上昇、台風の大規模化等を考慮した「河川施設のあり方」策定に向けた取組に着手し、今後目指すべき整備目標の設定や他施設への連携方策などを決定するための取組を実施 **A**



広域ゼロメートル市街地における気候変動による大規模水害リスクに備えた浸水に対応した高台まちづくりの推進 **A** **B**
出典:「災害に強い首都『東京』形成ビジョン」概要版

容積率許可のイメージ(例:共同住宅)



浸水リスクのある地域に建築される住宅等において、電気室を浸水リスクの低い一定の高さ以上の地上階に設ける場合、その部分を容積率制限の緩和の対象に追加することにより、洪水等の発生時においても建築物の機能継続を確保 **A**

大規模水害時の避難対策として、国と設置した「首都圏における大規模水害広域避難検討会」の議論等を踏まえ、複数の避難行動を組み合わせた分散避難を更に推進 **A**

主要施策 東京ベイeSGまちづくり戦略における主要施策 🏆 **こども**: 小中高生へのWEBアンケートにおいて関心の高かったベイエリアへの希望や大切にしたいこと(メダル数は関心の高さを表現)

A 区分A: 2030年までの実現を目指す取組(取組の特性により一部未着手・制度構築等を含む。) **B** 区分B: 2040年までの実現を目指す取組(取組の特性により一部未着手・制度構築等を含む。)

C 区分C: 中長期的な将来の実現を目指す取組 ※なお、区分A~Cは、事業進捗や状況変化により変更の可能性あり。

T TOKYO FORWARD 東京2020大会の成果を未来につなぐ取組 ゼロエミッション東京戦略の推進に資する取組


2 リスクにスマートに対応する 防災・減災対策の推進

[減災効果が期待されるグリーンインフラや緩傾斜防潮堤の導入を推進する]




高潮時には湿地帯となるHunters Point South Park(ニューヨーク)


主要施策 都市開発に合わせ、老朽化した直立護岸から減災機能を発揮するグリーンインフラの水辺への再生を誘導 (A) 

海岸保全施設の防潮堤の改修に当たっては、水辺に親しめ生物の生息にも適した緩傾斜防潮堤などの整備を一層推進(京浜運河など) (A) 


[DXなどを活用した都市強靱化の取組を進める]



ドローンの機動性や拡張性を生かし、災害現場等の様々な場面における更なる活用を進め、防災力を向上 (A) 

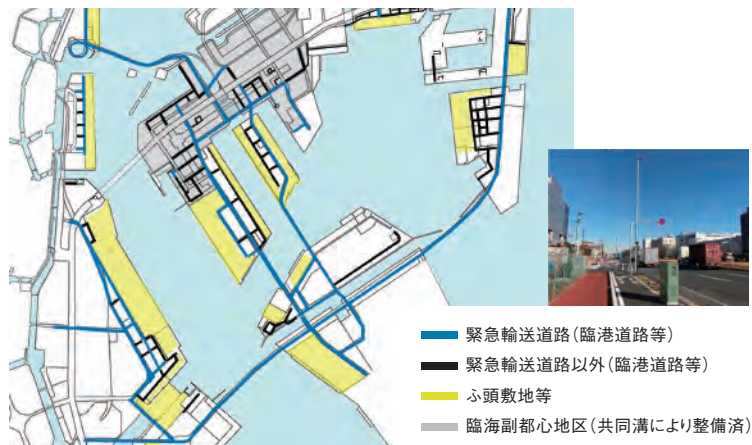
効果的な施策をデジタルの力で後押ししながら、気候変動に対応し、台風・豪雨や地震に備えたハード・ソフトによる都市強靱化の取組を推進 (A) 



主要施策 空間のリダンダンシーとして、被災地支援の巨大拠点の役割も担い、東京全体の迅速な復旧・復興に貢献できる機能の確保 (C) 

[切迫する巨大地震等に対して万全の備えを進める] 🚨🚨🚨

東京港における無電柱化対象



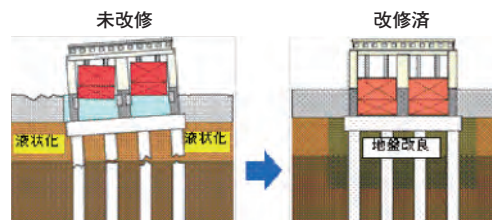
地震や風水害等の災害から電柱倒壊を防ぎ、災害時の円滑な対応に繋げるため、臨港道路や都道等において、無電柱化を推進
東京港エリアにおいては、緊急輸送道路に加えて、ふ頭敷地等を含め、全エリアを対象として整備 🏠🔌

都市再生特別地区や都市開発諸制度を活用したまちづくりなどにより、無電柱化の面的展開 🏠🔌

拠点形成に併せ、自律分散型の発電施設やコジェネレーションシステムの導入促進によるエネルギーの安定的供給と事業継続性の確保 🏠🔌



隅田川において、地震に対する安全性と河川環境の向上を図るため、沿川のまちづくりなどと一体的にスーパー堤防の整備を推進 🏠🔌



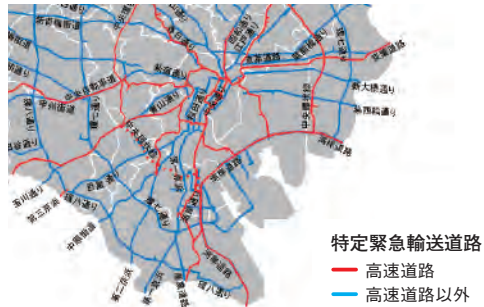
耐震対策イメージ

防潮堤等の耐震対策、水門・排水機場の耐震・耐水対策の推進 🏠🔌



耐水対策イメージ

2 リスクにスマートに対応する 防災・減災対策の推進



緊急輸送道路などの沿道建築物の耐震化を推進し、大地震の発生時に救急救命活動の生命線となり、緊急支援物資の輸送、復旧及び復興の大動脈となる道路の機能を確保(第一京浜など) **A**



六本木ヒルズ備蓄倉庫



都市開発諸制度や都市再生特別地区、市街地開発事業などを活用する開発等において、備蓄倉庫や非常用発電機設備、一時滞在施設の整備を促進するとともに、帰宅困難者の安全を確保 **A**



出典:「災害に強い首都『東京』形成ビジョン」概要版

木造住宅密集地域整備事業などにより、主要生活道路や公園・広場などのオープンスペースを整備するとともに、建築物の建替えによる共同化・不燃化を促進し、防災性の向上と住環境の改善を促進(大田区羽田二・三・六丁目地区) **A**

道路や一時滞在施設の混雑状況等をGPS情報等により把握し、帰宅困難者に対してリアルタイムに情報を発信(2022年度から順次実装) **A**



明石町防災船着場

防災船着場の日常利用により、災害時におけるスムーズな緊急輸送等の活動の確保と水辺の魅力向上を推進 **A**



有明の丘基幹的広域防災拠点は、首都直下地震等の大規模災害時の首都圏広域防災のヘッドクォーターとしての機能を発揮するとともに、平常時における関係機関による防災に関する各種訓練を実施 **A**

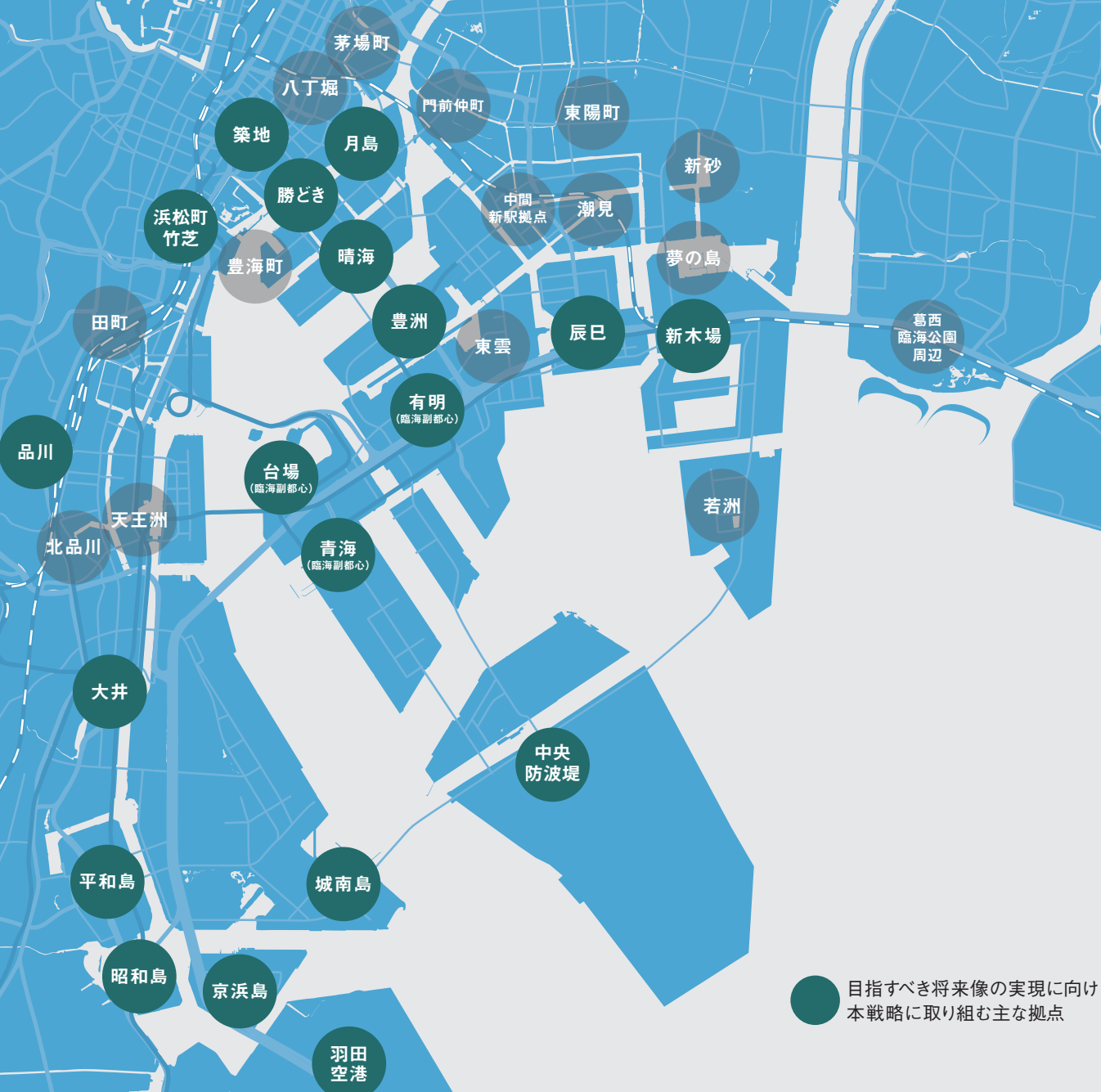


軽傷者・医療物資輸送

災害時における水上輸送の拠点となる防災船着場の整備・運用 **A**

戦略

3



3 ひとと地球のためのデジタルと 先端技術をまちの隅々まで実装

[2030年カーボンハーフ・2050年ゼロエミッション東京の実現に向け、都市のゼロエミッション化を進める] 🧑🧑🧑



荷役機械への燃料電池導入 トレーラー等への燃料電池導入 水素ステーション 分散型発電設備の整備 施設の一部を利用した太陽光発電 船舶への次世代エネルギー供給体制の整備

出典：「カーボンニュートラルポート(CNP)の形成について」(R3.6)国土交通省

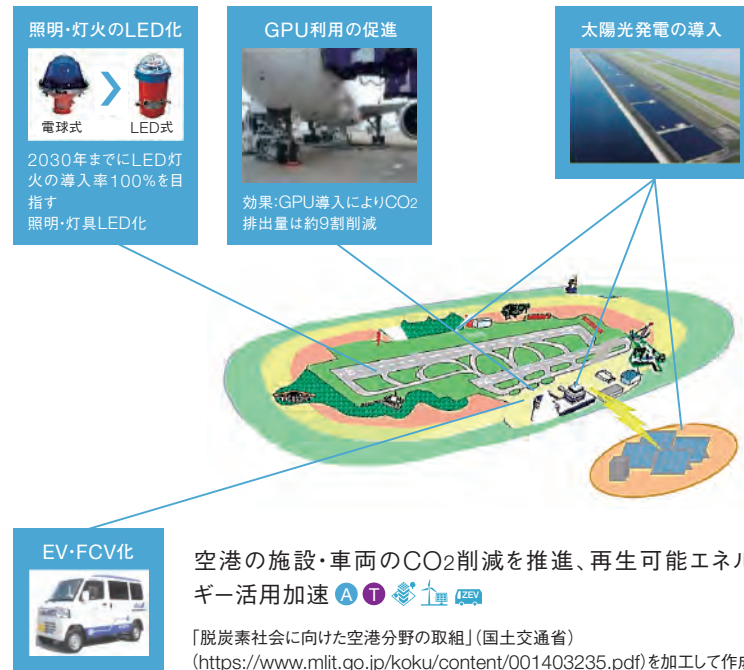
港湾・物流エリアにおいて、太陽光発電や荷役機械・トレーラー等への燃料電池の導入、デジタル技術による荷役の効率化を通じた環境負荷の低減などによるカーボンニュートラルの取組を推進



主要施策 藻場・浅場等の海洋生態系に取り込まれた炭素、いわゆる「ブルーカーボン」に着目し、干潟や藻場等を保全・再生

出典：水産庁HP

空港におけるカーボンニュートラル化のイメージ

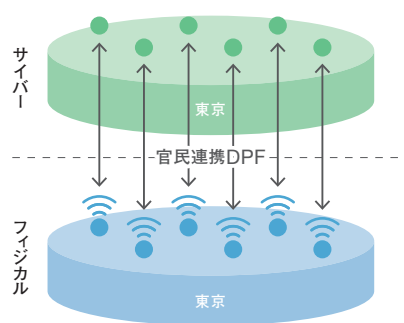


施設更新の機会を捉えて廃棄物処理の高度化を図り、設備・機器の省エネルギー化の促進や技術革新の動向を捉えた活用などにより、資源循環分野においても脱炭素との両立を追求し、ゼロエミッションに貢献する施策を展開

[ひとと地球のための最先端のデジタルテクノロジーを実装する] 🧑🏫🧑🏫



広大な埋立地で最先端テクノロジーを実装するエリアとして開放、ショーケース化し、空飛ぶクルマ、燃料電池船、マイクロモビリティなど、次世代モビリティを実装 **A**



バイエリアの3D地形データを整備することにより、防災、まちづくり、モビリティなどの分野でデジタルツインのサービスを実装し、デジタルの力によるQOL向上を実現 **A**

臨海副都心における「Digital Innovation City」の実現に向け、「デジタルテクノロジーの実装」及び「スタートアップの集積」を推進し、臨海副都心から新たなイノベーションを創出 **A**



XRイベント

5Gを活用した自動運転サービスや、XRイベントなど新たなライブ・エンタメを展開し、次世代技術の実装を図り、東京が目指す未来のまちをショーケース化 **A**

会場・青海地区を中心とした5Gネットワークやデータプラットフォームを整備 **A**



先端技術開発を担うスタートアップやeスポーツ関連の企業等の進出を支援 **A**

3 ひとと地球のためのデジタルと 先端技術をまちの隅々まで実装

[ひとと地球のための最先端のデジタルテクノロジーを実装する] 🧑🧑



主要施策 サステナブルな海との共生の観点から、海洋資源の開発などの海を使った技術の研究開発や、水害にも強い海上都市など、東京ベイエリアを世界に発信する最先端の「海洋×Tech」を検討 **C**



ZEV※の導入促進と充電設備等の環境整備 **A T ZEV**

※ZEV(ゼロエミッション・ビークル)とは、走行時*に二酸化炭素等の排出ガスを出さない電気自動車(EV)や燃料電池自動車(FCV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)を指します。

※PHVはEVモードによる走行時

駐車場附置に係る「地域ルール制度」の地域貢献策の取組事例に充電器設置を例示し設置を誘導 **A T ZEV**

コミュニティ交通や路線バスのオープンデータ化、データ蓄積を促進し、様々なモードや交通以外のサービスとの連携など、サービスの質向上につながるデータのユースケースともなる取組の実施について検討 **A**



将来像イメージ(「東京における地域公共交通の基本方針」より)

新たなモビリティも含む多様な交通モードとMaaS等の交通サービスを組み合わせ、利用者目線のスムーズな移動を実現 **A** **IZEV**

※MaaSとは、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるものです。



都市OS等を介して、まちのリアルタイムデータ等を活用した観光・モビリティ・イート・ヘルスケア・防災など複数領域横断型サービスを実装 **A**

eSGプロジェクトを推進し、グリーンテクノロジーの活用により、エネルギーを再生可能エネルギーと水素を柱とした100%クリーンエネルギーで賄うまちづくりを推進 **B** **IZEV**

プラスチック資源循環法の施行を踏まえ、従来の容器包装に加え、製品プラスチックのリサイクルへの取組を拡充することで、プラスチック資源の循環を促進し、ゼロエミッション東京の実現に貢献 **A** **IZEV**



木質廃棄物



破碎・異物除去・成型



パーティクルボード

提供: 東京ポート工業株式会社

木の伝統文化と先端技術が融合し、新たな価値が創出(新木場) **A** **T** **IZEV**

戦略

4



- 目指すべき将来像の実現に向け本戦略に取り組む主な拠点
- 本戦略の取組が行われる可能性が高い拠点

にぎわい・交流・イノベーションを生む世界から選ばれるまちの実現



[際立った地域の個性を更に磨き上げる] 🧑🧑



世界の人々を迎え入れ、新たな文化を創造・発信できる機能を導入(築地地区) **A** **B**



大学を核とした新たなオープンイノベーションの創出など、インキュベーション施設の整備促進(田町地区) **A**

東京工業大学田町キャンパス
土地活用事業
(NTTUD・鹿島・JR東日本・
東急不動産グループより提供)



ニーズに応じた柔軟かつ複合的な民間開発を誘導(臨海副都心、豊洲、晴海) **A**

都市の国際競争力の更なる強化に向け、高い経済波及効果をもたらし、ビジネス・イノベーションの機会創出や文化の発信などにつながるMICE機能を充実 **A**

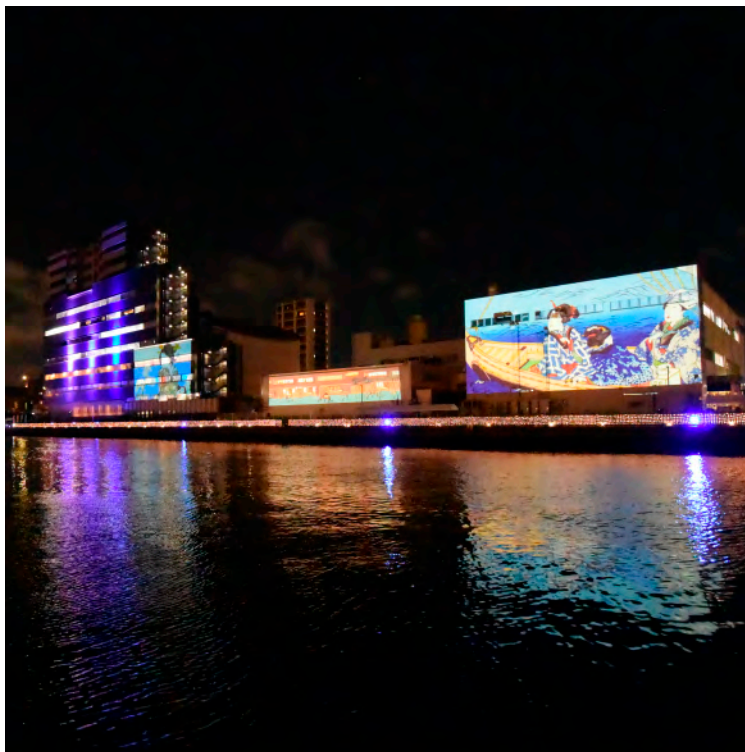
主要施策 東京ベイSGまちづくり戦略における主要施策 🧑🧑 **こども**: 小中高生へのWEBアンケートにおいて関心の高かったベイエリアへの希望や大切にしたいこと(メダル数は関心の高さを表現)

A 区分A: 2030年までの実現を目指す取組(取組の特性により一部未着手・制度構築等を含む) **B** 区分B: 2040年までの実現を目指す取組(取組の特性により一部未着手・制度構築等を含む)

C 区分C: 中長期的な将来の実現を目指す取組 ※なお、区分A~Cは、事業進捗や状況変化により変更の可能性あり。

T TOKYO FORWARD 東京2020大会の成果を未来につなぐ取組 🏠 🏢 🚗 🚲 🚶 🚴 🚰 🚲 🚶 🚴 🚰 ゼロエミッション東京戦略の推進に資する取組

4 にぎわい・交流・イノベーションを生む 世界から選ばれるまちの実現

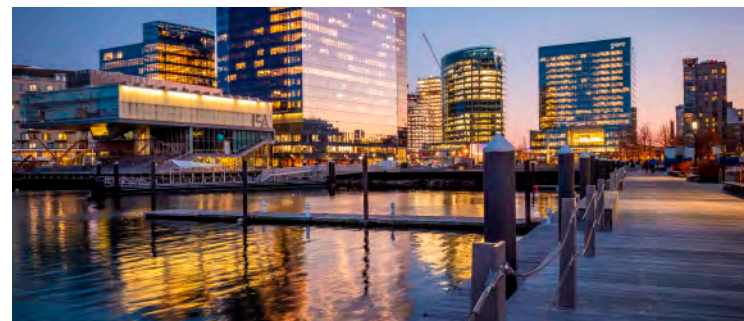


屋外広告物を活用したエリアマネジメントやプロジェクションマッピングの実施。
また、活発なエリアマネジメントにより、屋内外の私有空間と道路・公園等の公
共空間との一体的なにぎわいを形成 **A**

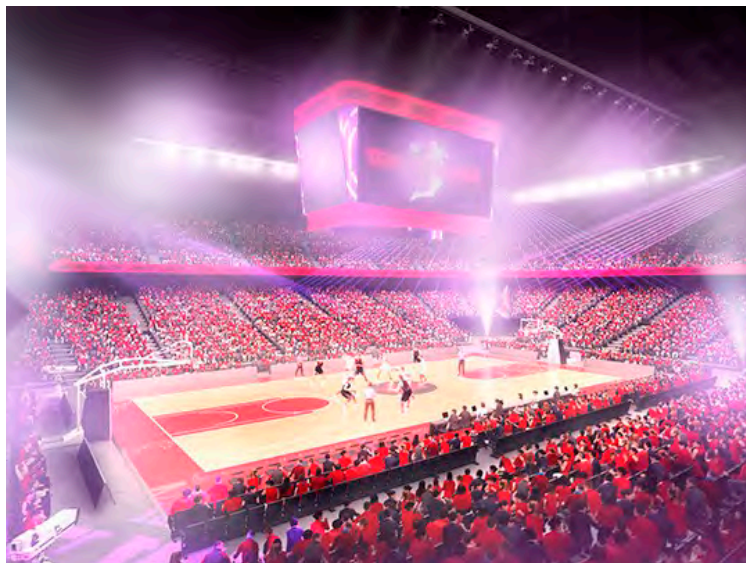


空き倉庫をカフェへコンバージョンした事例

テレワーク普及に対応し、共用スペースを備えたシェアオフィスやサテライトオ
フィス等の整備 **A**



交通利便性や静穏な内水面、長い水際線を生かし、働く人、訪れる人の活動
の質を高める複合的な都市機能を導入 **A**



アリーナのイメージ

臨海地下鉄の沿線地域では、未処分地、低未利用地の活用により高度利用を図りながら、スポーツ、エンターテインメント、エキシビション、ホテル等の機能を導入 **A**

にぎわい・交流について、ポストコロナも見据え、適切な環境を整備するとともに、移動手段をはじめ、民間開発による水準の高いホテルやレストランなど、動きをトータルで考えた施設整備を誘導し、都市として選ばれる理由を拡充 **A**

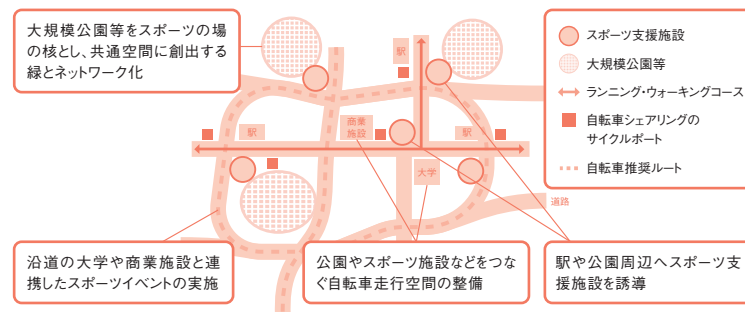
[面的に広がりあるレガシーを形成]



主要施策 東京2020大会の競技施設周辺では周辺民間開発による商業施設、ホテル、ホールなどの豊富な機能集積との相乗効果などにより、面的に広がりあるレガシーを形成(有明地区など) **A T**

面的に広がりあるレガシーのイメージ

スポーツを身近に楽しめるまちづくりのイメージ



身近な場でスポーツができる環境を整備し、身近な地域でスポーツを通じたウェルネスを実現 **A T**

大規模団地の建替えにあわせ、公共公益施設の再配置や交流機能の導入が促進するとともに、鉄道駅と東京2020大会の競技施設周辺をつなぐ散策路等の整備を通じた連続性を確保(辰巳地区) **A T**

4 にぎわい・交流・イノベーションを生む 世界から選ばれるまちの実現

[快適な都市活動を支え、新たな魅力やにぎわいを創出する] 🧑🧑🧑



夜のにぎわいや活気を演出する地区では、土地利用の特性に応じた照明により、都市全体の夜間景観にメリハリを付ける **A**

土地利用の転換などにより、新たな価値の創出に資する新産業の施設の立地を促進し、多様なイノベーションを創出(新木場) **A**

既存施設や良質な住環境に配慮するとともに、国際化等の多様なライフスタイルに対応した住宅や生活支援機能の誘導(品川、浜松町など) **A**



※写真は、森ビル株式会社とアート集団・チームラボが共同で企画・運営する「森ビル デジタルアート ミュージアム:エプソン チームラボボーダレス」です。

商業・文化機能の集積も充実させながら、デジタルアート等最先端の技術も活用し、過去、現在、未来が融合した多様性ある都市空間を拡充 **A T**

研究・学術・ものづくりや文化・芸術など新たな視点を重ね合わせた複合的な用途の配置や住宅地におけるにぎわいや交流の創出、サテライトオフィスなど新たな働き方を支える複合的な用途の配置等を誘導 **A**

世界を魅了する質の高い建築デザインなどの誘導により、恵まれたみどりや海や運河の水面を生かしたベイエリアにしかない、新たな魅力となる東京ならではの景観を創出 **A T**



品川駅北周辺地区

主要施策 民間提案や活力を生かせる仕組みを導入し、公共空間も含めたトータルなコンセプトやデザインによるベイエリアならではのエリア開発の促進 **A**



出典:「移動等円滑化促進方針・バリアフリー基本構想作成に関するガイドライン」(国土交通省)

障害者、高齢者、外国人など誰もが安心・快適に暮らせるユニバーサルデザインのまちづくりを展開し、ソフト・ハード両面で質の高いバリアフリー環境を整備 **A T**

戦略

5



- 1 ●●● 羽田空港アクセス線
- 2 ●●● 東京8号線延伸
- 3 ●●● 都心部・品川地下鉄
- 4 ●●● 都心部・臨海地域地下鉄
- 5 ●●● 新空港線
- 6 ●●● 首都高速晴海線延伸
- 7 <●●> 第二東京湾岸道路
- 8 ●●● 環状第3号線
- 9 ●●● 環状第4号線
- 10 ●●● 補助第144号線
- 11 <●●> 羽田空港周辺地域における道路網の拡充
- 12 ○ 主な船着場(計画も含む)
- 13 ● クルーズターミナル
- 14 ✈ 羽田空港
- 15 ● 東京ヘリポート
- 16 ● 東京BRT

羽田空港周辺地域における道路網の拡充

まちの魅力や活動の基盤となる 快適で多様な移動手段の充実



主要施策 [鉄道ネットワークの充実強化] 🏆🏆🏆

① 羽田空港アクセス線の新設

機能拡充を図る羽田空港と国際競争力強化の拠点である区部中心部や新宿、臨海部等とのアクセス利便性の向上が期待される羽田空港アクセス線について関係者との協議・調整を加速(田町(東山手)ルート2029年度運行開始予定) **A** **B**

② 東京8号線の延伸(有楽町線)

臨海部と区部東部の観光拠点とのアクセス利便性の向上や東西線の混雑緩和が期待される東京8号線の早期事業化に向けた取組を加速(開業目標2030年代半ば) **B**

③ 都心部・品川地下鉄の新設

リニア中央新幹線の始発駅となる品川駅及び同駅周辺地区と六本木等の都心部とのアクセス利便性の向上が期待される品川地下鉄の早期事業化に向けた取組を加速(開業目標 2030年代半ば) **B**

④ 都心部・臨海地域地下鉄の新設

区部中心部と開発が進む臨海地域とをつなぐ基幹的な交通基盤、言わば背骨としての役割

大いなるポテンシャルを有するベイエリアの鉄道網を充実させ、東京を持続可能な都市にし、日本の成長を確かなものとしていく上で重要な路線として、臨海地下鉄の事業計画の検討を進め、路線の具体化を更に加速 **B**

⑤ 新空港線の新設(蒲蒲線)

東急東横線、東京メトロ副都心線などとの相互直通運転を通じて、国際競争力強化の拠点である新宿、渋谷、池袋等や東京都北西部と羽田空港とのアクセス利便性の向上が期待される新空港線の事業化に向けた関係者の取組を更に加速 **B**

主要施策 東京ベイeSGまちづくり戦略における主要施策 🏆 こども：小中高生へのWEBアンケートにおいて関心の高かったベイエリアへの希望や大切にしたいこと(メダル数は関心の高さを表現)

A 区分A：2030年までの実現を目指す取組(取組の特性により一部未着手・制度構築等を含む。) **B** 区分B：2040年までの実現を目指す取組(取組の特性により一部未着手・制度構築等を含む。)

C 区分C：中長期的な将来の実現を目指す取組 ※なお、区分A～Cは、事業進捗や状況変化により変更の可能性あり。

T TOKYO FORWARD 東京2020大会の成果を未来につなぐ取組 ゼロエミッション東京戦略の推進に資する取組

5 まちの魅力や活動の基盤となる 快適で多様な移動手段の充実

[道路ネットワークの充実強化] 🧑🧑🧑

⑥ 首都高速晴海線延伸

都心と臨海部の連携強化とともに、臨海部などの交通分散や利便性向上に寄与する首都高速晴海線延伸の早期事業化に向けた取組を促進 **A**

外環(東名高速～湾岸道路)

「東京外かく環状道路(東名高速～湾岸道路間)計画検討協議会」における議論も踏まえ、羽田空港へのアクセス性を確保しつつ、東名高速～湾岸道路間の計画の早期具体化を促進 **B**

⑦ 第二東京湾岸道路 **主要施策**

三環状道路などと一体的な道路ネットワークを形成し、都県間の広域的な交流連携を促すとともに、湾岸エリアの交通混雑を緩和する路線。中央防波堤地区の土地利用が進むとともに、湾岸道路(国道357号)から内陸側については、生活関連物資等の流通を支える港湾の区域等を除き、都市的な拠点開発を促進 **C**

国道357号

東京湾岸の広域的なネットワーク形成のみならず、国際化が進む羽田空港へのアクセス向上や東京港の更なる物流円滑化に寄与する多摩川トンネルを整備促進 **A**

今後も進められていく東京湾岸エリアの開発に伴う交通量の増加に対応する辰巳交差点、東雲交差点、有明二丁目交差点の立体化する事業を促進 **A**

⑧ 環状第3号線

ベイエリアと区部中心部を結び交通・物流ネットワークの強化が期待される環状3号線の早期事業化に向けた取組を推進 **B**

⑨ 環状第4号線

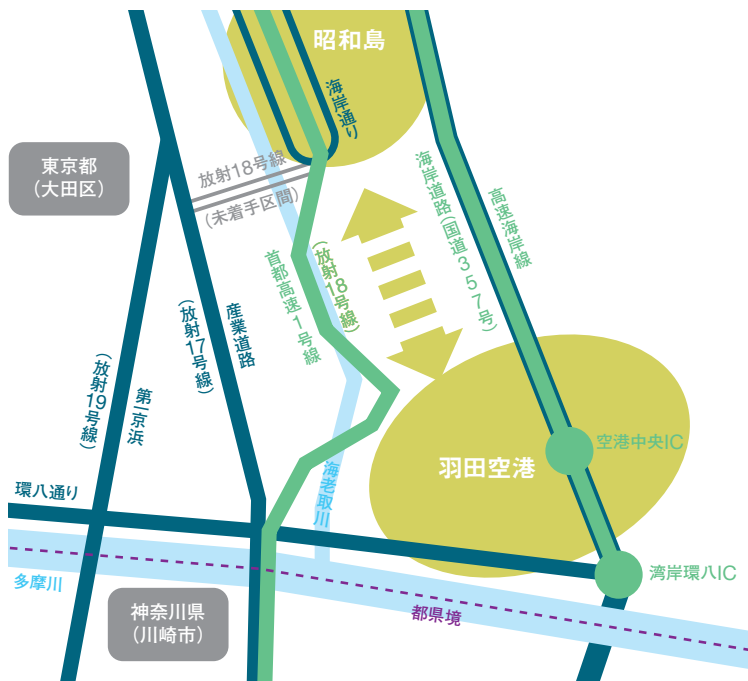
羽田・臨海部・六本木方面とのアクセスを向上させるなど、広域道路ネットワークの形成や開発に伴う交通処理に寄与する環状4号線の整備を推進 **A**

⑩ 補助第144号線

ベイエリアと区部東部をつなぎ、交通・物流ネットワークの強化に寄与する補助144号線の事業化に向けた取組を推進 **B**

11 羽田空港周辺地域における道路網の拡充

羽田空港の更なる機能強化と国際化に向けた取組が進められており、首都圏の活力を高める国際的な拠点空港へのアクセス性向上に向け都市計画道路の在り方について調査を推進 **B**



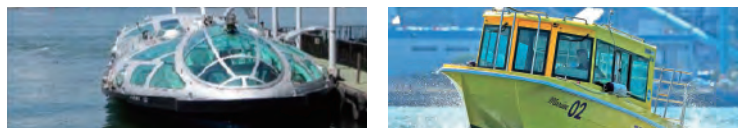
出典：東京における都市計画道路の整備方針(第四次事業化計画)P54

[舟運の活性化、港湾・空港などの都市基盤の整備、BRT、地区内交通の充実など] **👤👤**

12 舟運 **主要施策**

通勤・観光の利用拡大や公共船着場の開放、バリアフリー化、船客待合所の整備など、舟運の活性化に向けた取組を着実に推進 **A T**

複数の航路で通勤等を目的とした新規航路開拓に向けた取組等を実施し、更なる利用者の拡大や、水の都東京の発信を推進 **A T**



東京国際クルーズターミナルに隣接した新たな船着場を整備することにより、クルーズ客等が都内各地へアクセスする際の発着地として機能させるなど、移動手段を充実 **A T**



13 クルーズ

東京国際クルーズターミナルの2バス体制が実現 **A**

大型クルーザー

世界的に隻数が増加しており、東京2020大会による都市のプレゼンスの高まりなどから、今後、東京港への寄港が期待される大型クルーザーの受入体制を確保 **A**

5 まちの魅力や活動の基盤となる 快適で多様な移動手段の充実

14 羽田空港

ビジネスジェットの受入体制強化など、空港の機能拡充を通じて増大する航空需要への対応を強化 **A**



出典:国土交通省公表資料



出典:日本ビジネス航空協会

15 東京ヘリポート

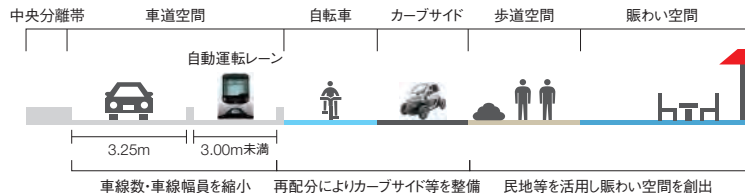
災害発生時の航空輸送基地として指定されている国内最大の公共用ヘリポートであり、今後とも東京都内のみならず国内ヘリコプターの運航拠点としての役割を発揮 **A**

自動運転社会を見据えた都市づくり

自動運転車の普及とともに、路肩側の車道空間であるカーブサイド、自転車通行空間及び歩行者空間の創出を実現 **A B**

カーブサイドでは、地域のニーズや時間帯に応じて荷さばき車両や超小型モビリティ等のシェアリングサービスの乗降スペース、歩行者の滞留空間や賑わい空間等で多目的利用ができる空間として活用 **A B**

[将来イメージ]




16 東京BRT

東京ベイエリアにおける交通需要の増加に速やかに対応し、地域の発展を支える新しい公共交通機関として、区部中心部とベイエリアとを結ぶ東京BRTの運行を推進 **A T**



地区内交通 **主要施策**

臨海副都心などにおいて、だれもが移動しやすい回遊性向上を図るため、官民の空間連携により、EVバスや舟運、シェアリングサービス、パーソナルモビリティなどのモードを組み合わせ、ベイエリアならではの地区内交通ネットワークを充実 **A** 

駅まち一体開発

複数の民間事業者による共同貢献の積極的な活用や都市開発諸制度等の活用により、地下鉄駅等とまちとが一体となった開発などを誘導し、交通結節機能の強化と「まちの顔」づくりを推進 **A**

物流ネットワークの形成

中央防波堤外側・新海面処分場における大水深岸壁を有した新規コンテナふ頭の整備や、既存ふ頭の再編、AI・IoTなどの最先端技術を活用した物流の効率化により、船舶の大型化や増大する貨物に対応 **A**

内貿ユニットロードターミナル・フェリーターミナルの機能強化や、トラック輸送から内航輸送、湾内や河川を利用したはしけ輸送、鉄道輸送など、環境にやさしい輸送モードへのモーダルシフトを促進 **A**

物流施設の機能更新

老朽化した物流施設が多く立地するエリアで、物流機能の高度化や大規模化などのニーズに対応する計画的・一体的な機能更新に向けた取組を促進 **A**

自転車通行空間の整備

晴海・豊洲・有明等地区を自転車活用推進重点地区（先行実施地区）として指定し、多言語案内や自転車通行空間の確保等、住みやすく、余暇や観光を楽しめるまちの実現を目指し、2021年度に整備計画を策定し、2022年度から集中的に取組実施 **A**

臨港道路等における自転車通行空間や海上公園内のサイクリングルートのネットワーク化を進め、安全で快適な自転車利用環境の整備を推進 **A**



ベイエリアへのアクセス

人や物の自由な移動を支えられるよう、品川と臨海副都心とのアクセス、臨海副都心と中央防波堤とのアクセスを含め、まちの魅力と活動の基盤となる基幹的交通ネットワークの構築を検討 **C**

5つの戦略に横串を通す都市づくりのシナリオ

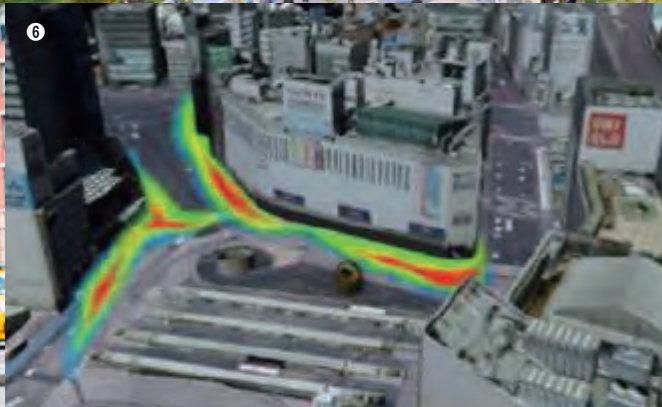
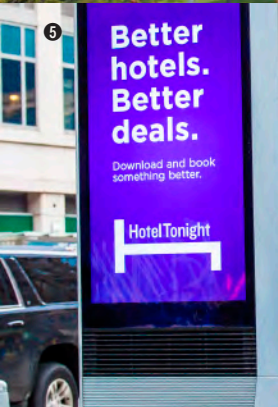
気候危機への対策を大前提として世界から人と投資を呼び込む

これまで示した各戦略の取組は、総合的に取り組むことで相互に関連して効果を発揮する。

水と緑、危機への備え、デジタル、イノベーション、多様なモビリティ

世界から選ばれる都市につなげる各戦略の要素に横串を通すひとつのシナリオを例示する。

- 東京2020大会の成功によって得た世界からの信頼と注目の高まりを追い風として、多様な集積を源泉に、“サステナブル・リカバリー”の実現に向け、気候変動などへのリスクに対する安全・安心という基盤(戦略2)の上に、水辺と緑を生かした魅力ある都市空間(戦略1)と利便性の高い都市機能(戦略3及び5)を創り、自然と調和して発展し続ける世界から選ばれる都市づくり(戦略4)を進める。
- 所有地の活用をはじめ、民間開発の機会も捉え、先端技術の活用による建築物の木造化(④)、省エネの最大化、再エネの利用拡大など、世界の潮流である「グリーン」と「デジタル」を基軸とした施策により、都市のゼロエミッション化を推進する。
- 水辺の魅力を生かした創造性を促す空間に「海洋×Tech」などの最先端の研究施設(③)やスタートアップ企業の集積を促すとともに、文化、アクティビティがセットとなった世界から人が集まるビジネスや生活の拠点を創造する。
- 自然と親しむ水辺の美しい景観やグリーンインフラの水辺への再生(①)など、親水性の向上が減災機能の確保につながっている。
- にぎわいと魅力ある空間に再編したオープンスペースは、災害時には、避難所や応急仮設住宅・医療施設等の需要にも対応できる「空間のリダンダンシー」としても機能する。
- 民間の力も生かして設置するスマートポール等により、まちの隅々まで行き渡った稠密なセンサーネットワークを形成(⑥)し、都民生活や都市活動のサービス向上と、災害時の迅速かつ正確な避難行動につながるリアルタイムの情報発信(⑤)の基盤となっている。
- 交通・物流機能を強化する道路網及びふ頭エリアの整備では、無電柱化によって災害時の迅速な救命救急・物資輸送機能が確保され、公共交通アクセスを高める地下鉄ネットワークでは浸水対策が進捗し、街の魅力となっている舟運(②)は、活性化に伴って災害時には迅速な帰宅困難者や物資の輸送に繋がっている。



個別の拠点の将来像

Individual vision for each area



AREA1

茅場町

八丁堀

門前仲町

東陽町

築地

月島

新砂

浜松町
竹芝

勝どき

中間
新駅拠点

潮見

夢の島

豊海町

晴海

豊洲

東雲

辰巳

新木場

葛西
臨海公園
周辺

田町

AREA2

品川

有明
(臨海副都心)

AREA5

北品川

天王洲

台場
(臨海副都心)

LEGACY
ZONE

若洲

青海
(臨海副都心)

AREA4

大井

中央
防波堤

AREA3

平和島

城南島

昭和島

京浜島

羽田
空港

戦略の実行によって実現を目指す 個別の拠点の将来像

東京ベイeSGまちづくり戦略で示したベイエリアの将来像の実現に向けては、それぞれの拠点の特性を生かしながら、様々な主体が連携し、都市基盤の整備や、民間の創意工夫を生かした優良な都市開発の誘導など、2章で示した戦略と取組を着実に整備・実装へとつなげてまちづくりを進めることで、拠点の個性を磨き上げ、ベイエリア全体の魅力や活力を向上させていくことが必要である。

本章では、新しい文化を創造・発信する拠点など、個別の拠点の将来像の一端を示す。
将来像に当たっては、良質な住環境や既存施設にも配慮しつつ、東京の次なるステージの都市づくりをリードしていく。

AREA

1

区部中心部とベイエリアの境界に位置し、
ベイエリアの玄関口となるエリア

AREA

4

東京ベイeSGプロジェクトを推進し、
「自然」と「便利」が融合する都市を先導するエリア

AREA

2

リニア中央新幹線の始発駅周辺であり、
広域交通アクセスに優れた特性を生かすエリア

AREA

5

交通利便性の向上を契機として発展するとともに、
水辺を楽しめる都市空間が創出されるエリア

AREA

3

世界や日本各地とつながる羽田空港に
近接する立地特性を生かすエリア

LEGACY ZONE

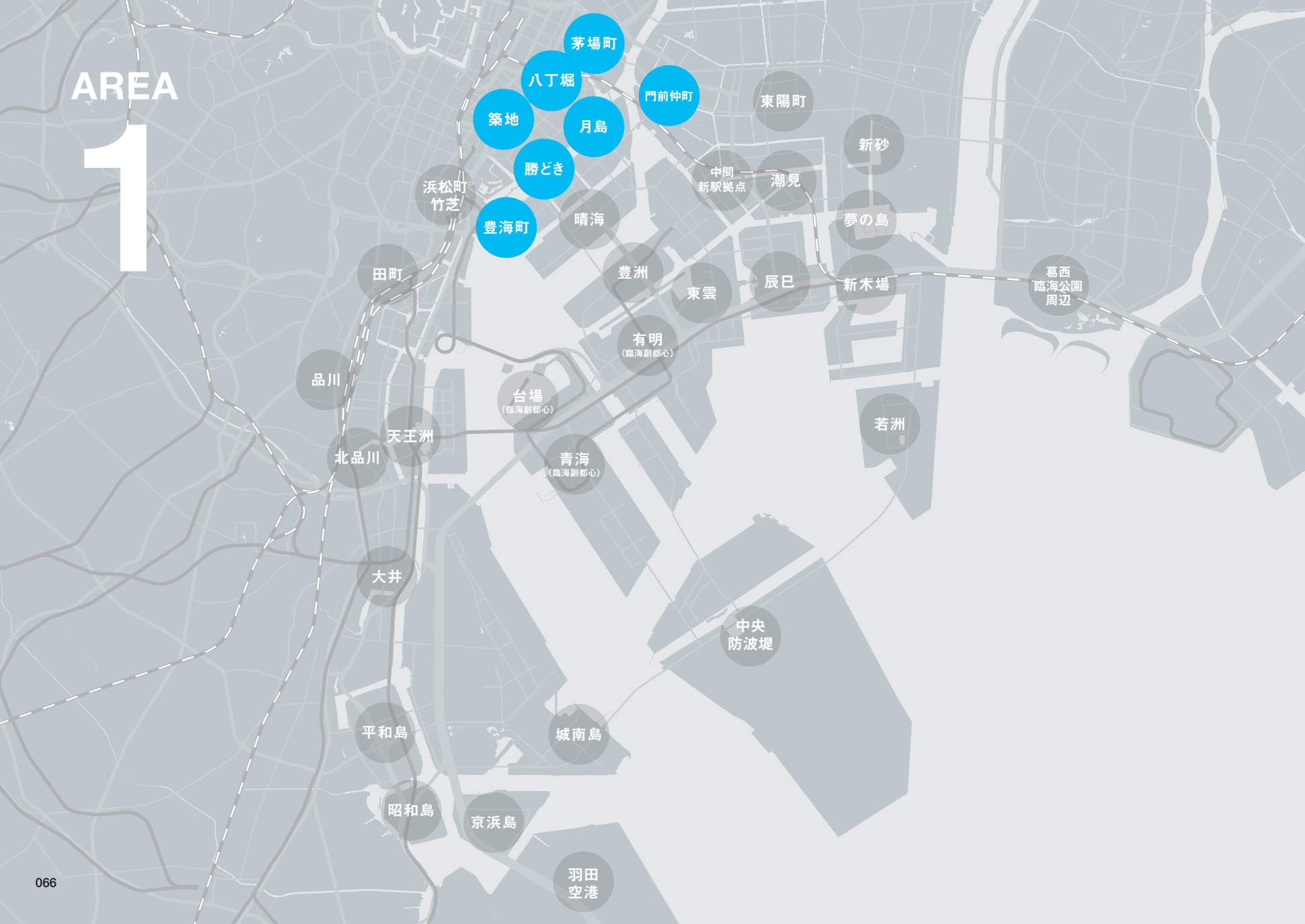
東京2020大会の競技施設を多く有し、
にぎわい創出につながる面的に広がりあるレガシーを
形成するエリア

※エリアについては、河川・運河や鉄道・道路、既存のまちづくり計画などを目安に、便宜的に分けたものである。

※将来的に地元のまちづくりの機運が醸成され、一定のまちづくりの方向性について整理された拠点については、本まちづくり計画のバージョンアップに合わせて追加していくこととする。

AREA

1



築地

実現のための戦略 1 4 5

- 水と緑に囲まれた都心の大規模な土地、歴史・文化資源などのポテンシャルを生かしながら、都心と臨海部を効果的に結びつけ、東京らしい魅力で世界中から多様な人々を出迎え、交流により、新しい文化を創造・発信する拠点を形成
- 水辺の東京を象徴する景観を創出

八丁堀・茅場町

実現のための戦略 4

- 公共・公益施設の再編や土地の高度利用により、金融・業務機能の高度な集積に加え、商業や生活利便施設、住宅などが立地し、日本橋・東京駅前及び大丸有地区等へのアクセス性を生かした、活力とにぎわいの拠点を形成

月島・勝どき・豊海町

実現のための戦略 1 2 4 5

- 臨海地下鉄の沿線地域では、低未利用地の活用により高度利用を図りながら、ビジネスパーソンや外国人を含む様々な人々に対応し、居住機能と商業・業務機能、サービス等の機能が集積した魅力的な拠点が形成
- 環状3号線の整備により、ベイエリアと区部中心部を結ぶ交通・物流ネットワークが強化されるとともに、水辺を生かしながら、快適で利便性の高い都市機能や世界を魅了する景観の中に、気候危機への対応がスマートに埋め込まれた拠点が形成

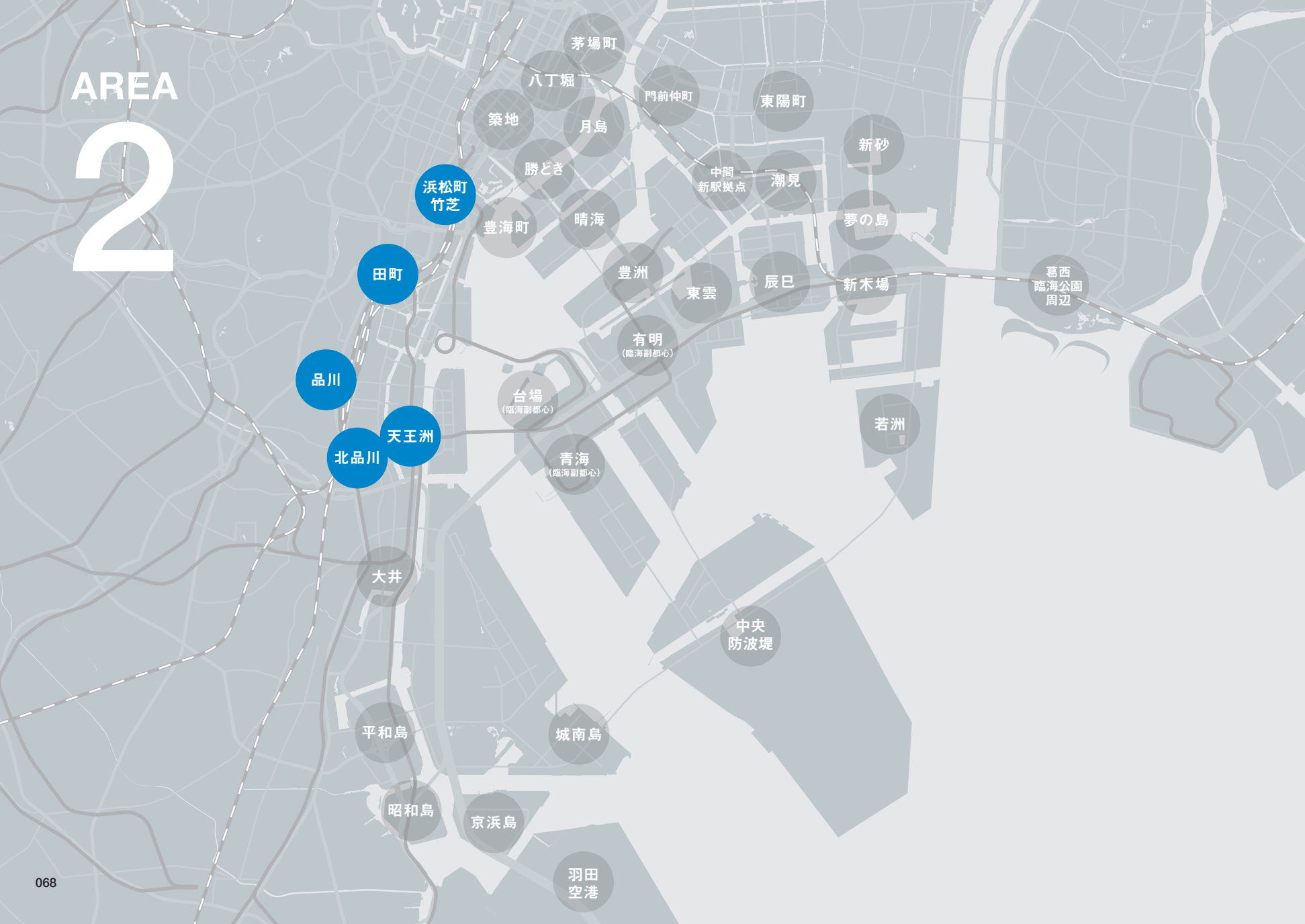
門前仲町

実現のための戦略 1 4

- 歴史や水辺を生かした回遊性の向上、商業や交流機能の集積などにより、魅力を発信し、活力とにぎわいの拠点を形成

AREA

2



品川・天王洲・北品川

実現のための戦略 3

- 羽田空港との近接性や、リニア中央新幹線、品川地下鉄、駅の再編、環状第4号線の整備などによる利便性の高い広域交通結節点の形成を生かし、最先端テクノロジーの研究機能などが集積し、イノベーションが生まれ続ける国際的な拠点が形成
- 東京湾からの「風の道」の確保、公園、緑地、運河などを活用した水と緑のネットワークの形成、下水熱の有効利用など、環境に関する先端的な取組が進んだまちを形成
- 水辺の活用やアートの展開などのエリアマネジメントが進み、個性豊かな水辺の景観を形成
- 中核的な拠点品川の南の玄関口として、旧東海道品川宿や品川浦周辺の水辺など良好な環境を生かし、拠点性・文化性を兼ね備えた国際交流都市のまちづくりを推進

田町

実現のための戦略 4

- 大規模インキュベーション施設が整備され、大学を核とした新たなオープンイノベーションが実現し、産学連携の拠点を形成

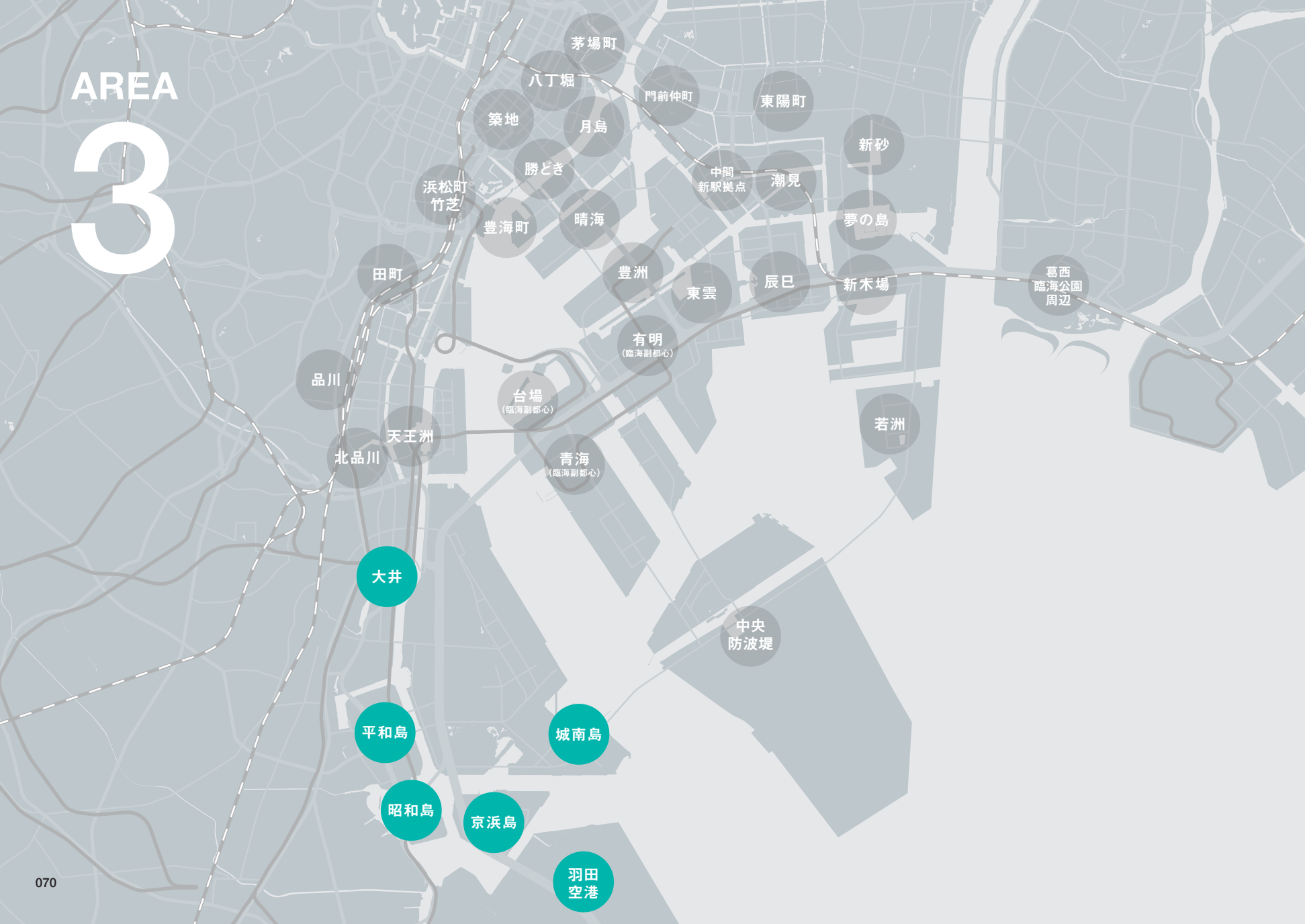
浜松町・竹芝

実現のための戦略 1 2 3 4 5

- スタートアップを含む民間企業や関係団体との連携による最先端技術や都市OS等を介したリアルタイムデータ等を活用したサービスが実装ベイエリアの他の拠点とつなぐ舟運が活性化されるとともに、エリアマネジメントなどにより、帰宅困難者対策、エネルギー連携などの防災対応力が強化
- かつての東京湾の環境を再生した、身近に触れられる干潟の整備などにより、環境教育の場の提供の推進
- 羽田空港や伊豆諸島・小笠原諸島との結節点にふさわしい観光の拠点として活力とにぎわいの拠点を形成

AREA

3



茅場町

八丁堀

門前仲町

東陽町

築地

月島

新砂

勝どき

中間
新駅拠点

潮見

浜松町

竹芝

豊海町

晴海

夢の島

田町

豊洲

東雲

辰巳

新木場

葛西
臨海公園
周辺

有明
(臨海副都心)

品川

台場
(臨海副都心)

若洲

天王洲

青海
(臨海副都心)

北品川

大井

中央
防波堤

平和島

城南島

昭和島

京浜島

羽田
空港

羽田空港周辺

実現のための戦略 3 4 5

- ビジネスジェットの入体制強化など、空港の機能拡充を通じて増大する航空需要への対応が強化され、羽田空港アクセス線や新空港線、舟運、深夜早朝アクセスバスなどによる多様なアクセスが確保
- 空港と隣接する地区では、先端・文化産業、情報発信機能、宿泊施設などが高度に集積し、東京と世界や日本各地がつながり、活発な交流が生まれる拠点的形成
- 空港施設や使用車両のCO₂削減が推進され、再生可能エネルギー活用が加速

京浜島・昭和島・城南島・平和島

実現のための戦略 1 3 4 5

- 最先端で高度な産業技術や工業などの施設の立地が進み、羽田空港に近接する立地特性を生かした産業・ビジネス空間が創出される際立った個性やポテンシャルを有する地域を形成
- 流通業務地区では、周辺のまちづくりと調和を図りながら、流通業務施設の機能更新・高度化・効率化が進められ、新しい時代のニーズに応える物流拠点を形成
- 公園、運河、海辺やその周辺では、水辺の散策路やスポーツ施設の整備などが進み、ゆとりがあり、スポーツに親しめ、交流の生まれる地域を形成

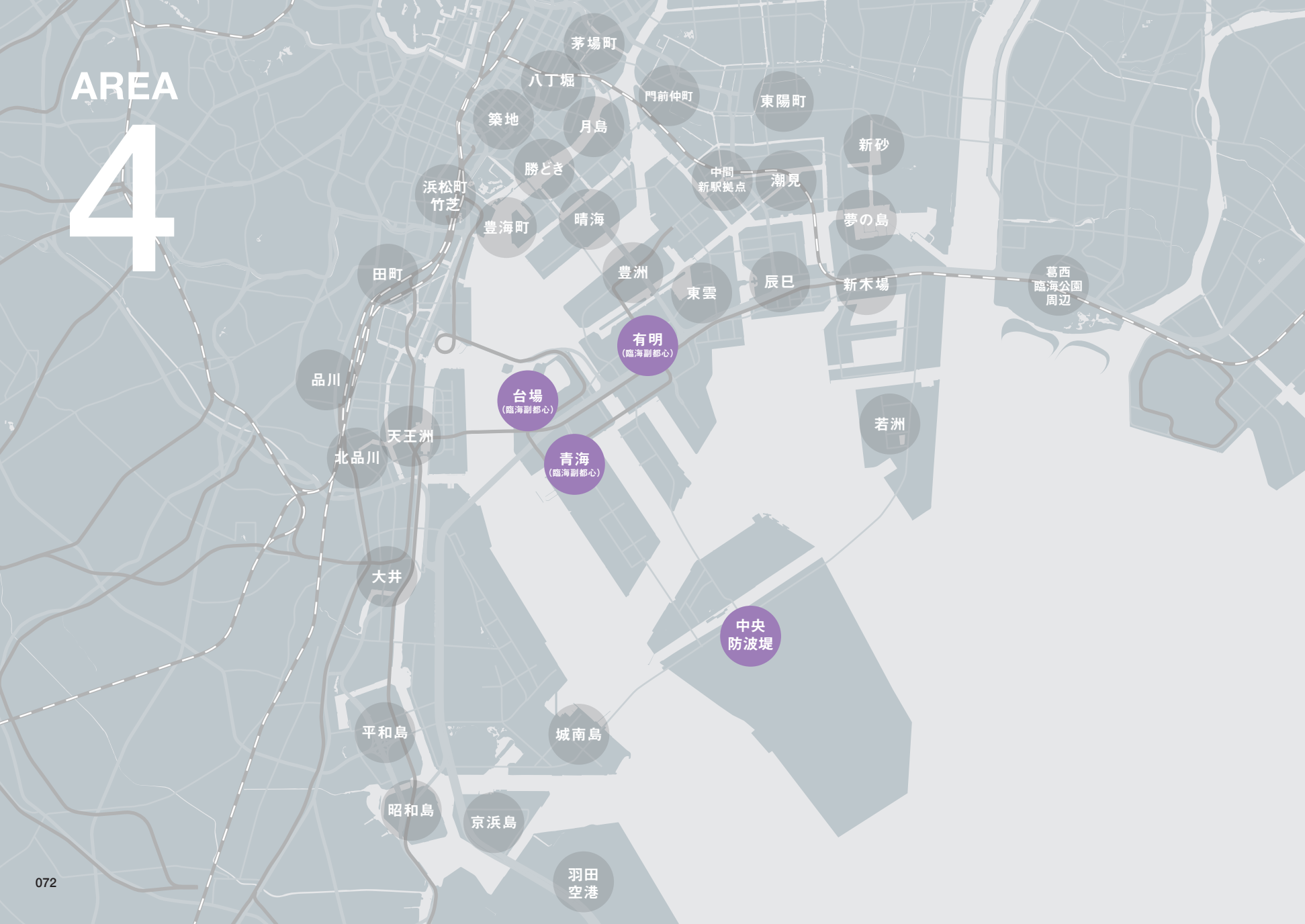
大井ふ頭中央海浜公園周辺 (八潮)

実現のための戦略 1 4

- ダイナミックな港湾機能の景観を楽しめ、非日常的な体験を共有できる場が形成

AREA

4



臨海副都心(台場・青海・有明)

実現のための戦略 1 3 4 5

- 羽田空港アクセス線や臨海地下鉄の沿線地域では、未処分地、低未利用地の活用による高度利用や既存施設のリニューアルを図りながら、世界から人と投資を呼び込むスポーツ、エンターテイメント、エキシビション、ホテル機能などの融合した交流拠点が形成され、開発に合わせて屋上や壁面、中間階、バルコニー緑化など立体的なみどり空間が充実
- 臨海副都心の都市空間構成をレビューするとともに、ニーズに応じた柔軟かつ複合的な民間開発を誘導し、公共空間を含めた一体的なデザインとマネジメントで個性を深化
- 屋外広告物を活用したエリアマネジメントやプロジェクトマッピングの実施などにより新たなにぎわいが創出
- 先端技術開発を担うスタートアップやeスポーツ関連の企業等の進出を支援

[台場・青海]

- 東京国際クルーズターミナルでは世界最大級の客船など多くのクルーズ客船が寄港。羽田空港との近接性を生かしたフライ&クルーズや、クルーズターミナルから舟運による観光・移動が活発化し、周辺のホテル・商業施設等との連携・交流が進むなど、陸海空の結節機能を活かしたホスピタリティあふれる観光拠点が形成
- エリアマネジメントの取組により空間利用が活性化し、水辺沿いの道路空間等は、回遊しやすい歩行者中心の空間ヘリノベーションするとともに、まちの象徴であるシンボルプロムナード公園は、働く人にも訪れる人にも快適な、にぎわいとゆとりのある柔軟な空間を創出し、海と緑に調和した親しみやすく、居心地のよい空間が形成

中央防波堤

実現のための戦略 1 3 5

- テクノロジーの大規模な実験エリアの創出に向けて、法的・技術的な制約を踏まえながら、自由度の高いプロジェクトを展開。また、将来的には第二東京湾岸道路の広域的なアクセス利便性を生かし、将来的な課題解決に資する最先端の研究や新たな技術開発に取り組むスタートアップ企業やショーケース機能が集積した新たなイノベーションを創出する一大拠点が形成し、「自然」と「便利」が融合する持続可能な都市を実現する取組が推進され、ベイエリアの特長である水辺や緑、大会レガシーも活用し、安らぎやワクワク感を体感でき、みんなが行きたくなるフィールドを実現
- 港湾・物流エリアにおいては、先端テクノロジーの実装など中央防波堤埋立地としての一体性も確保しながら、コンテナターミナルでの太陽光発電や荷役機械・トレーラー等への燃料電池の導入、デジタル技術による荷役の効率化を通じた環境負荷の低減などによるカーボンニュートラルポートを実現

豊洲・晴海

実現のための戦略 3 4 5

- 舟運が活性化され、東京8号線延伸、臨海地下鉄、有楽町線、ゆりかもめなどの鉄道ネットワークが充実
- 臨海地下鉄の沿線地域では、低未利用地の活用により高度利用を図りながら、スポーツ、エンターテインメント、ホテル、教育・研究機能などの融合した交流拠点が形成
- 都市OS等を介したデータの活用による、観光・モビリティ・イート・ヘルスケア・防災など複数領域横断型サービスが実装
- 既存の業務・文化機能を生かしつつ、教育施設をはじめとする公共・公益施設の充実が図られた複合市街地が形成
- ニーズに応じた柔軟かつ複合的な民間開発を誘導

辰巳・東雲

実現のための戦略 1 4

- 居住機能と商業・業務機能やサービス等の機能の充実を図り、職住近接を実現する地区として、良好で魅力ある都市環境が形成
- 大規模団地の建替えにあわせ、辰巳駅を中心とした交流機能や周辺居住者の生活支援機能の導入や公共公益施設の再配置が促進され、東京2020大会の競技会場周辺で散策ルートや水辺の親水空間が整備された都市環境が形成

潮見・中間新駅拠点

実現のための戦略 1 4 5

- 潮見駅周辺では、大規模低利用地の土地利用転換により、業務、商業、居住、交流などの機能が調和した地域が形成
- 東京8号線の沿線では、新線の整備効果が都市の発展に最大限に発揮されている一体感を持ったまちづくりが行われている。低未利用地も活用しながら、業務、商業、生活支援機能等が誘導・強化されているとともに、親水性が高く、連続性のあるオープンスペースなど、多様な人々が集い、生活・交流するにぎわいあるまちとして、水辺に囲まれた回遊の拠点が形成

南砂町（新砂）

実現のための戦略 1 4

- 大規模工場跡地の土地利用転換による新たな市街地では、水辺と緑を生かした環境の整備が図られるとともに、都市機能と物流機能のバランスの取れたまちが形成

新木場

実現のための戦略 2 4 5

- 都市的な土地利用への転換や倉庫等のコンバージョンなどにより、木の伝統文化から発展する資源循環の先端技術などが活用されるとともに、新たな価値の創出に資する新産業の施設の立地が誘導され、働く人、訪れる人の活動の質を高める複合的な都市機能が導入
- 駅周辺では、良好な交通利便性を生かし、生活利便施設が拡充されるとともに、舟運が活性化され、都市開発に合わせた活力とにぎわいの拠点が形成
- 静穏な内水面、長い水際線を生かし、減災機能を発揮するグリーンインフラの水辺への再生や水害リスクを考慮した土地利用やまちづくりの誘導

葛西臨海公園駅周辺

実現のための戦略 1 5

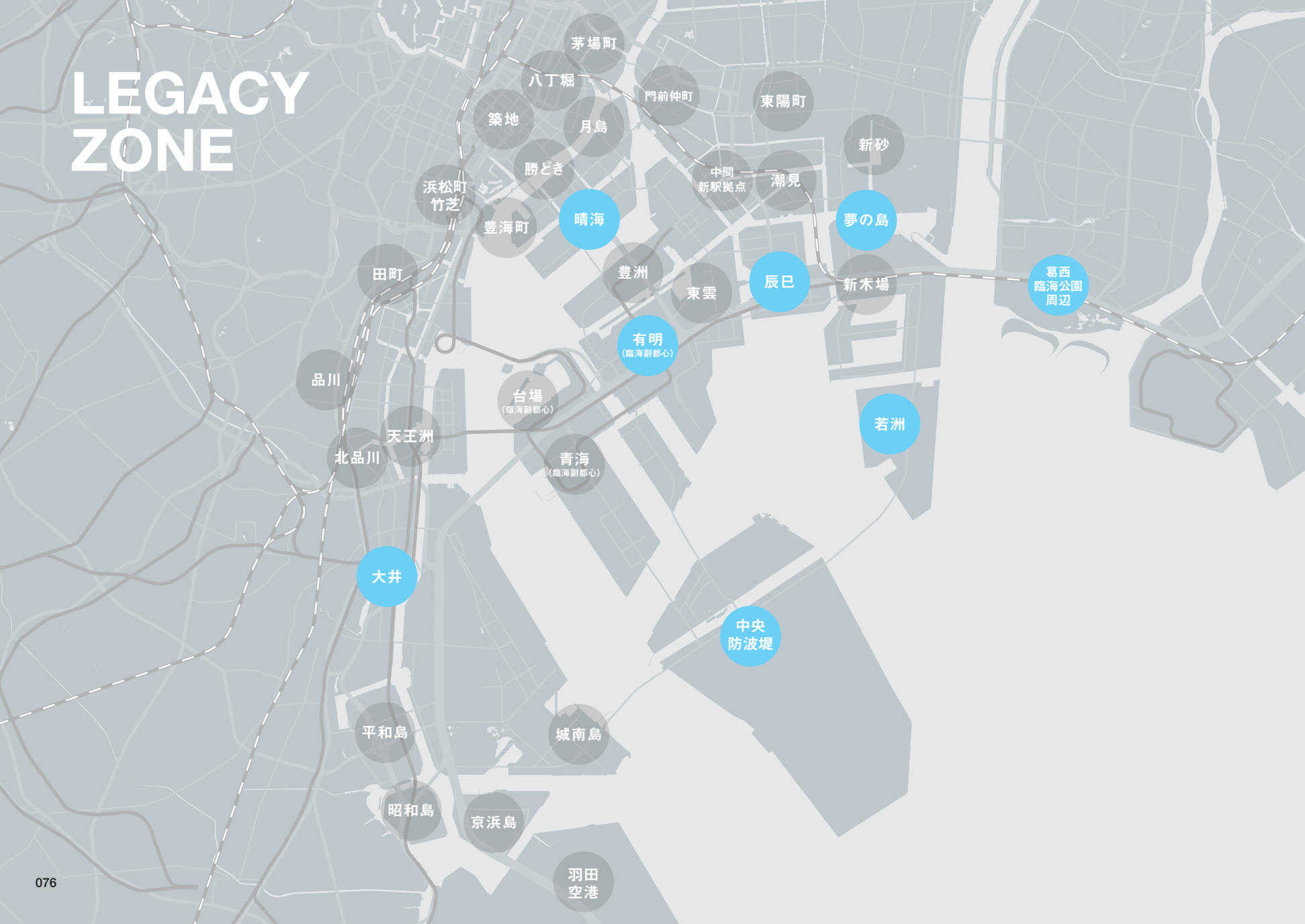
- ラムサール条約湿地の登録地として、野鳥や水生生物等の貴重な生息地である干潟が保全され、自然環境保全、環境学習などの多様な活動の拠点が整備。今後整備される新たな水族園や利活用が想定される既存施設、海水浴体験ができるなぎさ、カヌー・スラロームセンターや新左近川親水公園カヌー場等の施設が充実されるとともに、各拠点をつなぐ既存の水上交通ネットワークも活用しながら、多様な生物や自然と共生し、海と人がつながる場所が形成
- 流通業務地区では、周辺のまちづくりと調和を図りながら、施設の機能更新・高度化・効率化が進められ、新しい時代のニーズに応える物流拠点が形成

東陽町

実現のための戦略 4 5

- 東京8号線の延伸等による都市基盤の整備や交通結節機能の強化を見据え、業務、商業、サービスなどの機能が集積した活力とにぎわいの拠点を形成

LEGACY ZONE



晴海

実現のための戦略 3 4

- 選手村地区では大会のレガシーとなるまちの形成に向け、水素ステーションを整備し、車両への供給を行うほか、パイプラインによる各街区への水素供給を行い、発電した電力を住宅共用部などで活用

有明

実現のための戦略 1 4

- 有明レガシーエリアでは、大会の感動・記憶を形に残し、広くスポーツに親しむ大会開催を記念する公園が整備されるなど、散策ルートや水辺の親水空間が整備された都市環境が形成
- 有明アリーナや有明テニスの森周辺では、民間開発による商業施設、ホテル、ホールなどの豊富な機能集積の相乗効果により、東京2020大会の競技施設を生かしたスポーツ・ウェルネス・シティが形成

辰巳

実現のための戦略 1 4

- 東京2020大会の競技会場と辰巳の森海浜公園、夢の島公園などの大規模公園を生かしたスポーツ・レクリエーション施設を最大限に生かし、ベイエリアのスポーツと体験の一大拠点の一角を形成するとともに、水辺に開かれた都市環境を形成
- 大規模団地の建替えにあわせ、辰巳駅を中心とした交流機能や周辺居住者の生活支援機能の導入や公共公益施設の再配置が促進され、東京2020大会の競技会場周辺で散策ルートや水辺の親水空間が整備された都市環境が形成

夢の島

実現のための戦略 1

- 散策路やサイクリングコースなどを通じた夢の島公園と辰巳の森海浜公園との連続性が確保され、水辺空間を生かし、新たなレクリエーション空間が創出

葛西臨海公園駅周辺

実現のための戦略 1 4

- ラムサール条約湿地の登録地として、野鳥や水生生物等の貴重な生息地である干潟が保全され、自然環境保全、環境学習などの多様な活動の拠点が整備。今後整備される新たな水族園や利活用が想定される既存施設、海水浴体験ができるなぎさ、カヌー・スラロームセンターや新左近川親水公園カヌー場等の施設が充実されるとともに、各拠点をつなぐ既存の水上交通ネットワークも活用しながら、多様な生物や自然と共生し、海と人とがつながる場所が形成

若洲

実現のための戦略 1

- 競技施設に近接し、ヨット訓練所やゴルフ場、キャンプ場などが立地する若洲は、他のスポーツ施設との連携が進み、スポーツとレクリエーションによる交流エリアを形成

中央防波堤

実現のための戦略 1 3 5

- 海の森公園及び海の森水上競技場では、自動運転のモビリティや舟運などによるアクセス向上が図られ、ダイナミックな景観が眺められる新たなにぎわいの拠点として、連携して活用

大井ふ頭中央海浜公園周辺(八潮)

実現のための戦略 1 4

- ホッケー競技場を含む大井ふ頭中央海浜公園は、スポーツ施設が集積した総合的なスポーツ・レクリエーションの場が形成され、他の競技施設と一体となり新たな一大スポーツゾーンが形成

東京ベイeSG まちづくり戦略の進め方

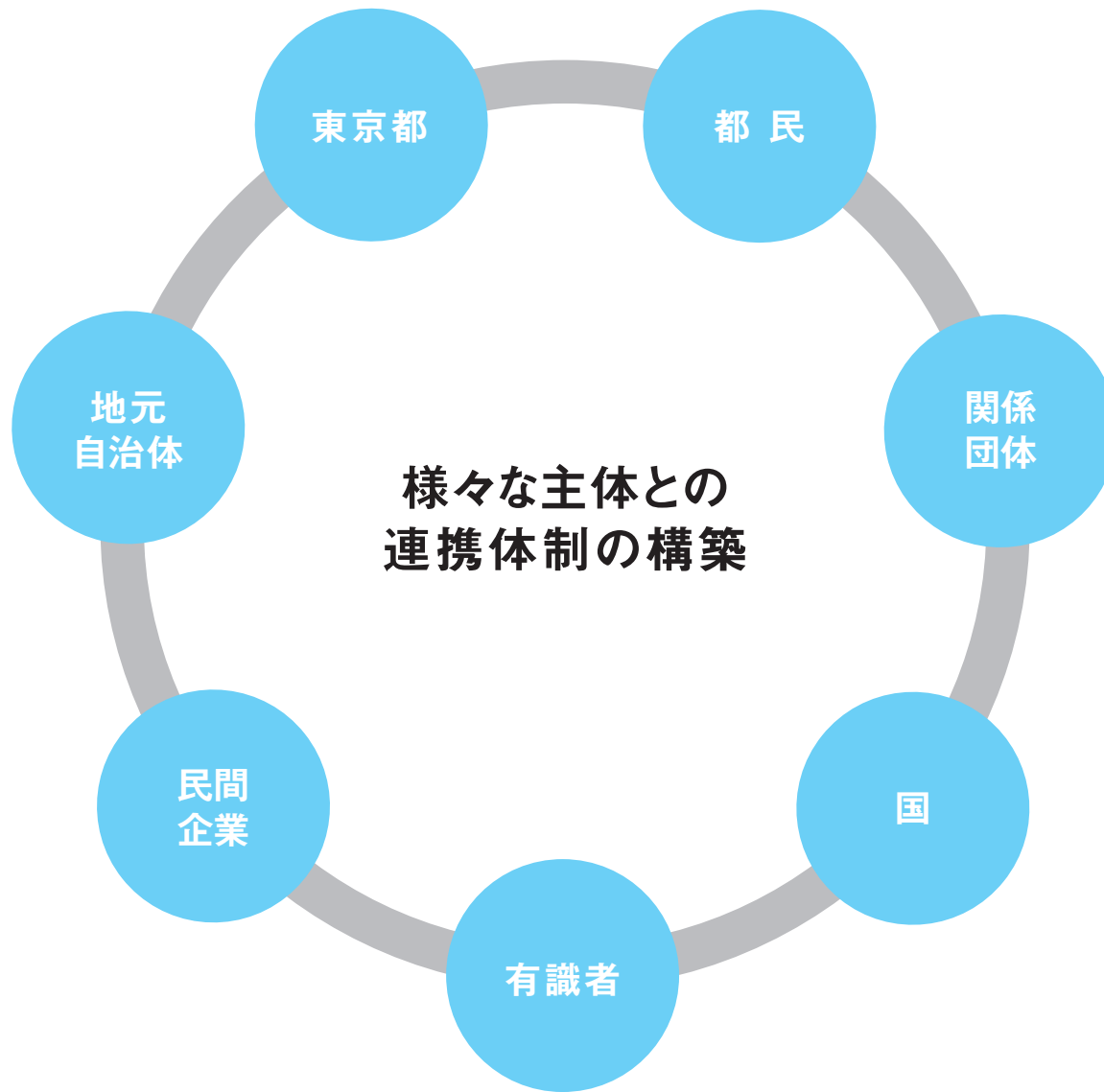
Toward realization of Tokyo Bay eSG
Urban Development Strategy

戦略の進め方

「東京ベイeSGまちづくり戦略2022」は、世界のモデルとなる未来の都市づくりを強力に推進し、東京の国際競争力を押し上げ、ひいては日本の持続可能な発展につながる未来への行動を加速させていくための実行戦略である。

東京ベイeSGプロジェクトと連携・調整を図りながら、新たな計画の策定や既存計画の見直しも踏まえつつ、時代や状況の変化や、取組の中で生じた課題にアジャイルに対応し、戦略をバージョンアップしていく。

東京ベイeSGまちづくり戦略の推進に当たっては、都の推進体制を強化し、国をはじめ、地元自治体、民間企業など様々な主体と連携しながら、ベイエリアの将来像の実現に向け、都市基盤の整備や、民間の創意工夫を生かした優良な都市開発の誘導などの具体的な取組をスピード感と実行力をもって速やかに整備・実装へとつなげていく。



3か年アクションプラン

2章で示した主な取組について、東京2020大会レガシーの発展、気候変動への対応、海と緑の環境への調和など、まちづくり戦略の策定の背景やコンセプトとの関係性が強い取組の中から抜粋し、3か年のアクションプランを示す。都は、自ら取り組む事業を積極的に推進することはもとより、広域的な観点からリーダーシップを発揮し、関係者による都市づくりの取組をけん引していく。

戦略

1 質の高い緑と魅力的な水辺空間の形成

水辺と緑を生かしたひとを惹きつける魅力ある空間をつくる

- 臨海副都心については、水辺沿いの道路空間等は、回遊しやすい歩行者中心の空間へリノベーションするとともに、まちの象徴であるシンボルプロムナード公園は、働く人にも訪れる人にも快適な、にぎわいとゆとりのある柔軟な空間を創出し、海と緑に調和した親しみやすく、居心地のよい空間を形成していく。
- 開発に合わせて立体的なみどり空間を充実する。

具体的な取組	年次計画			
	2021年度末(見込み)	2022年度	2023年度	2024年度
道路等と建物を一体的に活用した、魅力ある空間形成	行政の取組や民間誘導の方策を調査	臨海副都心の道路等におけるテラス化などの誘導		
立体的なみどり空間の充実 (臨海副都心など)	行政の取組や民間誘導の方策を調査	立体的みどりの質や量の評価の在り方など 技術的な検討を深度化都市開発諸 制度活用方針の改定	開発に合わせて立体的なみどり空間を充実	

東京2020大会のレガシーを発展させ、 水と緑に親しみ憩いと安らぎが感じられるまちを形成

- 大会の感動・記憶を形に残し、広くスポーツに親しむ大会開催を記念する公園として、有明親水海浜公園の新規開園に向けた拡張整備を実施する。
- 有明親水海浜公園の敷地内において、大会時の仮設競技施設を活用した、若者に人気のある都市型スポーツの場として有明アーバンスポーツパーク(仮称)を整備し、民間事業者の創意工夫を活かした運営を図っていく。
- 海の森公園等の新規開園に向けた設計や工事を推進する。

具体的な取組	年次計画			
	2021年度末(見込み)	2022年度	2023年度	2024年度
有明親水海浜公園	設計・工事等、順次開園			
有明アーバンスポーツパーク(仮称)の整備・運営	調査実施	事業者公募・一部開業・全面開業		
		設計・工事		
海の森公園	工事の推進(開園までの間は音楽フェス等の大規模イベントやデイキャンプ等、多様なレクリエーションの場として利用)			

まちに潤いを与える水辺空間を形成する

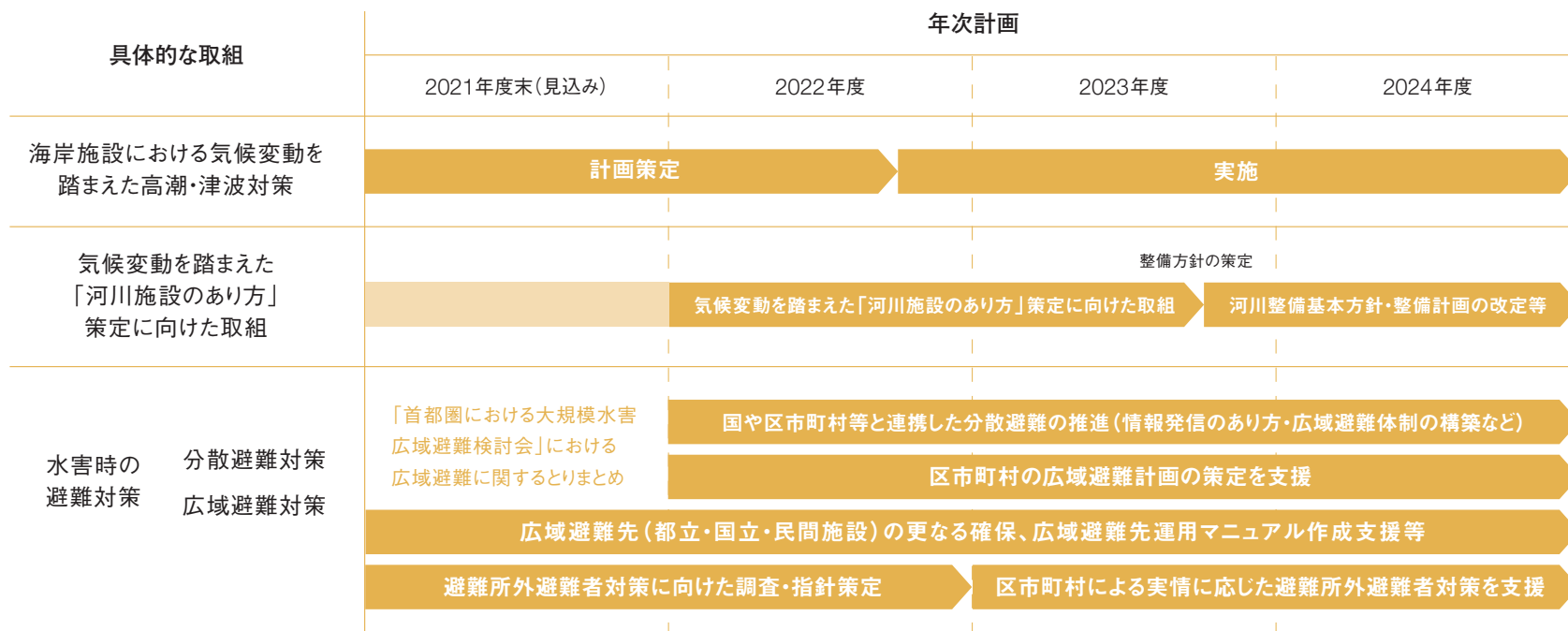
- 葛西臨海水族園の更新に向け新施設整備事業を推進する。

具体的な取組	年次計画			
	2021年度末(見込み)	2022年度	2023年度	2024年度
葛西臨海水族園	実施方針公表・事業者募集	審査・事業者選定	事業着手・施設設計等	

2 リスクにスマートに対応する 防災減災対策の推進

気候変動を踏まえた高潮・津波対策・豪雨対策を加速する

- 気候変動を踏まえた高潮・津波対策として、「東京海海岸保全施設整備計画」を改定し今後予想される海面水位上昇等に備え、防潮堤の嵩上げを実施するなど、防潮堤、内部護岸や排水機場等の整備を着実に推進し、高潮・津波への対策を一層強化する。
- 気候変動の影響による降雨量の増加や海面上昇、台風の大規模化等を考慮した「河川施設のあり方」策定に向けた取組に着手し、今後目指すべき整備目標の設定や他施設への連携方策などを決定するための取組を実施する。
- 国や関係機関で構成する「首都圏における大規模水害広域避難検討会」における検討結果を踏まえ作成する広域避難に係るガイドライン等に基づき、区市町村の広域避難計画の策定を支援する。



切迫する巨大地震等に対して万全の備えを進める

- 「東京都無電柱化計画(改定)(2021年6月)」及び「東京港無電柱化整備計画(2021年6月)」で示した整備目標の達成に向け、着実に推進する。

具体的な取組	年次計画			
	2021年度末(見込み)	2022年度	2023年度	2024年度
臨港道路等の緊急輸送道路の無電柱化	約2km本体工事着手	約2km本体工事着手	約3km本体工事着手	約3km本体工事着手

減災効果が期待されるグリーンインフラの導入を加速させる

- 都市開発に合わせ、老朽化した直立護岸から減災機能を発揮するグリーンインフラの水辺への再生を誘導する。

具体的な取組	年次計画			
	2021年度末(見込み)	2022年度	2023年度	2024年度
グリーンインフラの導入 (新木場など)	行政の取組、民間の誘導方策について調査	海外の事例を調査 (民間との協働方策など)	実施に向けた基本的な考え方を提示	

3 ひとと地球のためのデジタルと 先端技術をまちの隅々まで実装

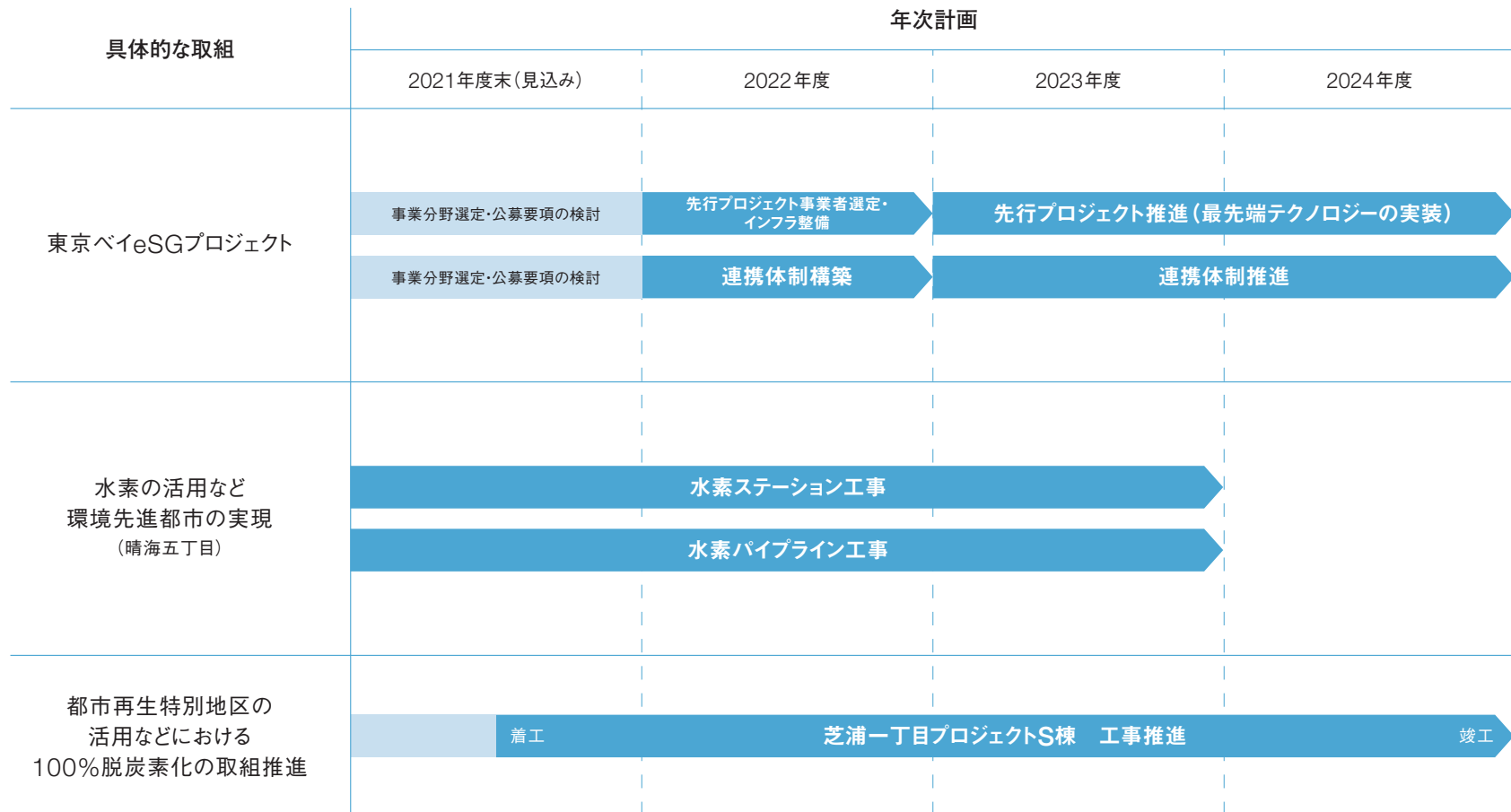
ひとと地球のための最先端のデジタルテクノロジーを実装する

- ベイエリアの特性から、海という資源を最大限に生かした最先端の「海洋×Tech」を研究開発する海上都市を検討する。

具体的な取組	年次計画			
	2021年度末(見込み)	2022年度	2023年度	2024年度
最先端の「海洋×Tech」を研究開発する海上都市		海外都市の事例を調査	実施に向けた基本的な考え方を提示	

2030年カーボンハーフ・2050年ゼロエミッション東京の実現に向け、 都市のゼロエミッション化を進める

- 東京ベイeSGプロジェクトを推進し、ポストコロナの世界の大都市のモデルとなるような、「自然」と「便利」が融合する持続可能な都市の実現に向け、最先端テクノロジーの実装を図る「先行プロジェクト」に着手するとともに、多様な主体との連携を図るためのプラットフォームを構築する。
- 選手村地区では、実用段階では国内初となるパイプラインによる各街区への水素供給を計画しており、選手村地区を持続可能な水素社会のモデルとし、環境先進都市を実現する。
- 技術革新の動向も見据え、都市再生特別地区の活用などによる100%脱炭素化の取組を推進する。
- 東京港におけるカーボンニュートラルポート(CNP)形成計画策定に向け、調査や技術検討を実施するとともに、「東京港CNP検討会(仮称)」を設置して脱炭素化に向けた東京港ユーザー、エネルギー事業者等の取組や意向の把握などを行う。
- 東京港の海域環境を踏まえ、海藻類の光合成、底泥への炭素定着・貯留の作用を活用したCO₂の効果的な吸収・貯留源(ブルーカーボン生育基盤)を整備する。
- 都市開発諸制度等を活用した民間開発において、EV等充電設備の設置を促進する。
- 臨海副都心の建築物などにおける水素エネルギー活用に向けたモデルを構築することで、民間事業者における普及を促進する。



4 にぎわい・交流・イノベーションを生む 世界から選ばれるまちの実現

際立った地域の個性を更に磨き上げる

- 民間提案や活力を生かしたベイエリアならではの開発の促進のための仕組みづくりや規制緩和などを行っていく。
- 臨海副都心等は、ニーズに応じた柔軟かつ複合的な民間開発を誘導するために既往計画の必要な見直し等を行っていく。
- 都市空間をレビューし、水辺沿いの道路空間等の再編や公共空間の利活用、水辺を生かしたまちづくりを進める。

具体的な取組	年次計画			
	2021年度末(見込み)	2022年度	2023年度	2024年度
水辺や公共空間と一体性のある ベイエリアならではの トータルデザインによる 開発計画の誘導		検討推進体制の整備	トータルデザインによる開発を誘導	
		公共空間の再編等の 開発誘導の方向性を検討	柔軟かつ複合的な民間開発を誘導するための既往計画の必要な見直し等	
		水辺・公共空間活用等の規制緩和策の整備		
臨海副都心の公共空間の再編、 エリアマネジメント		公共空間の再編等に関する調査	インフラ整備・開発の誘導	
		調査	エリアマネジメントの推進	

- 築地地区については、東京らしい魅力で世界中から多様な人々を出迎え、交流により、新しい文化を創造・発信する拠点の形成に向け、事業を推進する。
- 品川駅周辺では、「品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドライン」に基づき、都市基盤整備と一体的な開発整備の誘導等により、日本の成長を牽引する国際交流拠点の形成を推進する。
- 辰巳地区では、都営辰巳一丁目団地の建替事業にあわせて創出される用地を活用し、駅周辺の市街地の再生に向け検討を進める。
- 東京2020大会の競技会場となった東京辰巳国際水泳場を都立初となる通年アイスリンクへ転用し、誰もが水上スポーツに親しめる場としていく。

具体的な取組	年次計画			
	2021年度末(見込み)	2022年度	2023年度	2024年度
築地地区の整備	実施方針の公表	事業者募集	事業推進	
品川駅周辺の整備		品川駅周辺地区、品川駅西口地区 地区計画変更	ガイドラインに基づく開発整備の誘導	
		泉岳寺駅地区除却工事推進	建築工事	
		北口交通広場整備、連続立体交差事業の推進		
都営辰巳一丁目団地の 建替事業	建替事業の推進			
東京辰巳アイスアリーナ(仮称) の整備・運営	実施設計	実施設計 施設運営計画の策定・公表	改修工事 指定管理者募集・選定準備	改修工事(2025年度開業予定) 指定管理者募集・選定

5 まちの魅力や活動の基盤となる快適で 多様な移動手段の充実

- 国際競争力強化、臨海部の活力・魅力向上、鉄道の快適な利用などに資する鉄道ネットワークの整備・充実等について、計画的に推進し、調整が整った路線から順次事業に着手する。
- 幹線道路ネットワークの完成に向けた道路整備等を推進する。
- 舟運の交通・観光の両面における移動手段としての定着を目指し、新規航路開拓に向けた取組を進めながら、ポストコロナを見据えた舟運の幅広い活用に関する検討を行うとともに、バリアフリー化、ICカードシステム等の導入に向けた取組など利用者の利便性向上、新規整備予定の船着場の利用促進等を継続して行っていく。
- 新たに整備される晴海五丁目船着場開放に向けて調整を進めるなど、舟運の更なる活性化及び船着場周辺の更なるにぎわい創出を図っていく。発災時の水上輸送を確実にを行うため、東京港防災船着場整備計画に基づき、拠点となる大森南4丁目(仮称)や羽田空港一丁目(仮称)など、防災船着場の整備を推進する。
- 企画便の運航などを通じ、複数の航路で通勤等を目的とした社会実験を実施し、さらなる利用者の拡大や、水の都東京の発信を図っていく。
- 羽田空港の長期的な航空需要への対応を図り、ビジネスジェットの入管理体制の強化などについて、国に対して更なる機能強化の検討を求めていくとともに、都としても、羽田空港の更なる機能強化のあり方について調査していく。
- 東京港においてコンテナ貨物の増大や船舶の大型化に対応するため、中央防波堤外側コンテナふ頭(Y3)の整備を推進するとともに、既存のコンテナふ頭の再編を進める。

具体的な取組	年次計画			
	2021年度末(見込み)	2022年度	2023年度	2024年度
鉄道ネットワークの整備	関係者との協議・調整			
道路ネットワークの整備	事業の推進			
舟運の活性化	舟運の幅広い活用に関する調査			
	公共船着場への予約システム導入拡大		晴海の船着場完成	公共船着場の新規開放
		企画便の運航		
	案内サインの充実、バリアフリー化等			
羽田空港の機能強化	羽田空港の更なる機能強化の在り方調査			
東京港の機能強化 (中央防波堤外側コンテナふ頭Y3整備)	工事推進 (Y3バース)			

東京ベイeSGまちづくり戦略の 位置付けについて

ベイエリアのまちづくりは、「都市づくりのグランドデザイン」や「東京都市計画区域マスタープラン」等の上位計画との整合を図り、国、地元自治体、民間企業など、様々な主体との連携・調整のもとに推進されてきたところである。

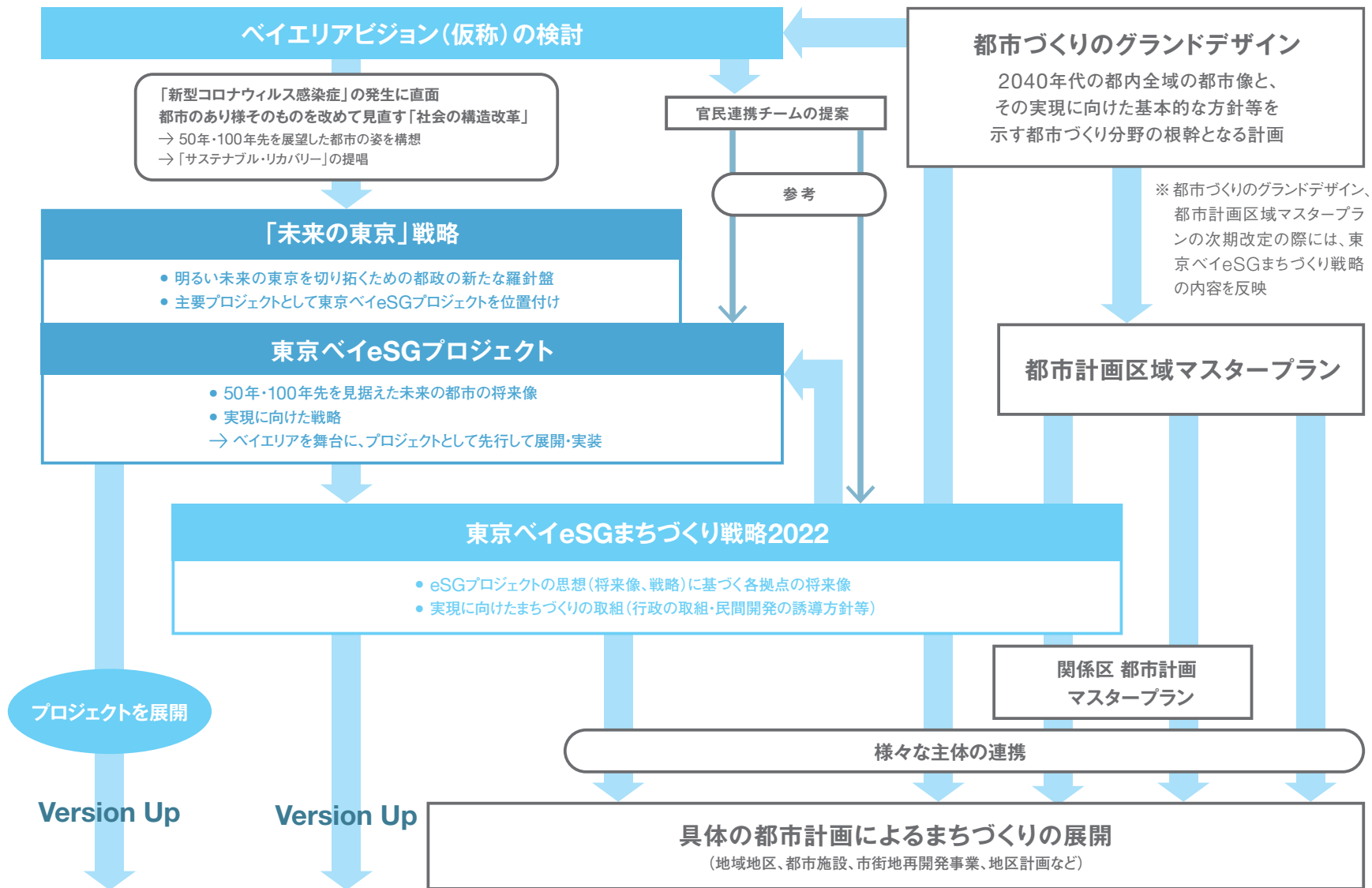
令和3年には、明るい未来の東京を切り拓くための都政の新たな羅針盤となる「未来の東京」戦略が策定され、その主要プロジェクトとして東京ベイeSGプロジェクトが示された。この「東京ベイeSGまちづくり戦略2022」は、これらの上位計画を踏まえ、社会情勢の変化等を反映して策定したものであり、ベイエリアにおける2040年代の将来像と、その実現のための行政の取組や民間誘導の方策を示す行政計画である。

策定に当たっては、過年度に官民連携チームからの提案を参考として検討を行ってきた「ベイエリアビジョン(仮称)」から更に、2021年4月に公表した「東京ベイeSGプロジェクト」の具現化を下支えする実行戦略として、検討を深度化した。

具体的には、気候変動への危機感等を背景に世界的な潮流となっているグリーンとデジタル、新型コロナがもたらした様々な変化改革に対応するとともに、東京2020大会の成果を都市のレガシーへと発展させていく新たなステージに立ったベイエリアの都市づくりについて、より進化した発展を続けていく「サステナブル・リカバリー」を果たすための戦略と取組を示している。

また、都の関連計画、答申となる「ゼロエミッション東京戦略」や「未来へつなぐTOKYO2020の記憶」、「東京港第9次改訂港湾計画に向けた長期構想」、「自動運転社会を見据えた都市づくりのあり方」などとも整合を図っている。

今後、様々な主体との連携を図りながら、都市基盤の整備や、民間の創意工夫を生かした優良な都市開発の誘導など、ここに示した戦略と取組を速やかに社会実装につなげるとともに、生じた課題にアジャイルに対応して取組を更に高め、必要に応じて上位計画などへの反映を検討していく。



東京ベイeSGまちづくり戦略

有識者の意見及び 提案の概要

東京ベイeSGまちづくり戦略では、ベイエリアが目指すべき将来像と、その実現に向けた戦略や取組を示すため、サステナブル、テクノロジー、デジタル、都市、交通、防災、緑、ランドスケープ、水辺の都市開発、エネルギー、観光といった都市づくりに係る幅広い分野の有識者の知見を参考とした。

50年・100年先の未来の都市像からバックキャストした2040年代のベイエリアのあるべき姿や都市づくりの方向性、解決すべき課題や問題意識、今後の概ね20年～30年間で行政が取り組むべきこと、効果的な民間開発の誘導策や民間と連携して取り組むべきことなどについて、多くの貴重な意見や提案をいただいた。

本戦略に示した将来像の実現や取組の推進において不可欠である様々な主体との連携を図る上で、ひとつの参考となるよう、その概要を掲載する。

[AI・ロボティクス]

北野宏明 氏

きたの ひろあき

株式会社ソニーコンピュータ
サイエンス研究所
代表取締役社長 所長

- ベイエリアの新たなステージへの期待は、コスモポリタンな大都市を持続可能へとメタモルフォーズすること。生物学的多様性、そこで生活する人の多様性、ライフスタイルの多様性など、あらゆる階層での多様性を最大化する方針が良いだろう。民間とも連携し、建築も都市も開放性を高め、自然や生態系を取り込むような都市づくりで本当の意味での自然との共生ができればいい。
- 実験で終わらせず実装に発展させるには、場所などのプラットフォームの提供とともに、明快な事業化・商業化へのステップを示すこと。一部の新規開発地域では、自律走行EVのみを許可し、人間の運転する自動車の乗り入れを禁止するなどのチャレンジがあってもよいだろう。実験としては、海底も含めて環境改善・生物学的多様性の最大化を図るようなテラフォーメーション、自然を創るという取組は面白いチャレンジ。成功したらすごい、いろんなところで使える。
- デジタル活用の方向性としては、稠密なセンサーネットワークを形成して、オートマティックに情報収集処理し、データがさらに価値を生み出す、いわゆる「ハーベスト・ループ」の実現を目指すべきであろう。安全、健康、教育等、どこで住民や訪問者に対する価値を生み出すかを重視しながら、生活やサービスの向上に反映すること。「スマートシティ」はいままで全滅であることを認識する必要があり、今までの失敗を研究すること。サブライサイドのロジックでは、成功はおぼつかないことを理解する必要がある。
- これからの都市は、パンデミックや大規模災害に対応できる必要がある。残念ながら首都直下型地震、富士山噴火、南海・東南海トラフ地震や台風の巨大化、温暖化による海面上昇などが、我々にとっての「約束された未来」である。日本においては、これらに耐え、生き残れる都市が最も価値ある都市であろう。

[サステナブル]

河口真理子 氏

かわぐち まりこ

立教大学特任教授
不二製油G本社株式会社
CEO補佐

- サステナブルといったとき、海との共生は大事。場所柄高潮が来ない前提に立てない矛盾をどう考えるのかにおいて、海洋民のように共生できるような、高知の沈下橋のように災害をやり過ごすような都市を目指すというのならあり得る。
- 海だからできることをアピールする。「海×何々」なら東京」と言われるように、ブルーカーボンなど海洋資源の開発や、水の上に住むことの研究のように、特定の技術について海を使った大規模な実験を促すなど、よそへ行かずに全部東京に来说えるくらいの拠点と資源を整備し、それを発信をする。海洋プラスチックの問題解決の拠点も考えられる。エネルギーに転換するような施設を作ってみるのも有益ではないか。
- アートが楽しめることは大事。生活が楽しめるところでないと人は来ない。暮らしを楽しむための最高のものが、仕事と一緒にで楽しめること。都心であるなら、生活を高める“一流の魅力”があるべき。

【都市政策】

市川宏雄 氏

いちかわ ひろお

明治大学名誉教授

- 臨海部は、都心の一部である認識がない。この認識に立ったインフラ整備がされてこなかった。都心の中の臨海として、グレードアップが必要。最大の問題は背骨がないこと。臨海地下鉄で背骨を通す。リニア新幹線の発着する品川へ直接つながる臨海線からの交通アクセス整備が必要。
- 築地は今後の臨海の発展の陸側の起点になるので、それをにらんだ開発の視点が必要。
- 都市空間をどうするのか。非人間的では魅力はない。ヒューマンスケールで見直さない限り、人が集まる活気のあるまちにならない。
- 海はベイエリアの強みなのに、観光資源という視点がない。海を使って何かしようということがない。五輪で陽の目が当たっている今がチャンス。今後の発展は、民間の開発をいかに誘導できるかにかかっている。
- 東京は“環境”や“文化交流”の評価が低い。ハイクラスホテルが少なく、イベント開催も弱い。ナイトライフが充実していないと昼とセットにならない。“東京の都市力を上げる”などのストーリーを作り、ベイエリアを東京の弱点を解消していく象徴的なエリアにしてはどうか。

【交通政策】

岸井隆幸 氏

きしい たかゆき

日本大学
理工学部特任教授

- ベイエリアの戦略は、臨海地下鉄の早期整備、パーソナルモビリティ空間の確保、個性の深化、そしてIntegrated Design&Management。
- パーソナルモビリティ空間の確保は、個性ある拠点の整備を本気でやるということで、そのために企業や利用者などとの連携をしっかりとすることが必要。区内交通は、公民の空間連携が大前提にないとうまく進まない。初めからどう使うかを含めたマネジメントの仕組みが必要。
- 品川と臨海部のつながりが弱いことは課題というより宿題。品川駅直結ではないかもしれないが、ロープウェイでつなぐこともあり得る。
- 第二東京湾岸道路が「物流を担う広域幹線道路」となった時には臨海部は変化し、内陸側は益々、内陸水面として考えるべきで、そう考える事が臨海部全体の魅力向上につながる。
- 舟運をさらに発展させるためには、他の公共交通機関との連携、水辺を大事にした設え、船着き場の整備と柔軟な運用。

【デジタル】

吉村有司 氏

よしむら ゆうじ

東京大学先端科学技術研究センター
特任准教

- バルセロナのAIやビッグデータを生かしたまちづくりでは、人間や社会の何をスマートにするのが強く問われる。都市のスマート化というよりも、そこに暮らす市民生活の質をいかに上げるかという発想。
- センサーをまちに入れることへの市民感覚はいろいろあるが、データやセンサーの活用による市民へのリターンはたくさんあるので、日本にあったモデルをさがしていくことが必要。
- テクノロジーの社会実装とは、改善しながら、まち全体で育てていくことであり、目的に対して完璧なデータというのではないと考える方が自然で、様々なデータ活用策をアジャイルしながら取り組んでいくことが重要。

【防災都市づくり】

加藤孝明 氏

かとう たかあき

東京大学生産技術研究所教授

- 災害リスクが高いと国際的にいわれる東京は、リスクを十分（すぎるぐらい）に把握した上で災害にスマートに備え、スマートに対応できることをアピールするべきである。特に巨大災害に対しては、完全な防御を目指すのではなく、スマートに「災害をやりすぎず」、あるいは、「災害を受け流す」ことも重要な視点である。災害大国日本の特徴は、「自然災害リスクと賢く共生」することといえる。
- 防災という単一の目的だけではなく、総合的なソリューションを提示することが重要である。自然と親しめ、景観もよく、かつ災害への備えにも役立つ時代を先取りする。
- 「安全のお裾分け」という概念が重要である。新規の開発に伴い、周辺に「安全のお裾分け」を行うことで周辺の脆弱性を改善する。例えば、葛飾区の浸水対応型市街地構想では、既成市街地の更新を捉えて低層部は浸水しても被害の少ない浸水対応型の建物にするとともに、自立型ライフラインと浸水しない外部空間を有する拠点街区を開発し、被災時には周辺の避難生活支援と避難場所を提供するといったものがある。ベイエリアの開発では、もう一段広域のスケール感での「安全のお裾分け」を行う拠点と位置づけられる。
- 東京の防災問題の根幹問題は、高密広域市街地であることに起因する。災害復旧・復興では、オープンスペース・空間の不足が最大の課題である。例えば、避難所、がれき集積場所・分別場所・一時置き場、応急仮設住宅用地、復興まちづくりのタネ地等、いずれもオープンスペース・空間が不足している。空間のリダンダンシーがない脆弱な状態である。ベイエリアは、既成市街地が抱えるこうした問題を解消し得るバッファースペースとして、巨大かつ強力な支え拠点になりえる。
- 災害対応とDX・デジタルは極めて親和性が高い。日常利用も可能なセンサーによる被災時のリアルタイムなまちの状況の発信・共有。平時の目的と抱き合わせて、建築物に予め設置しておけば、ディザスターレディのまちづくりを実現できる。ベイエリアの開発では、時代を先取りした都市空間のDXを実現し、東京全体の都市のDXの先導モデルを構築すべきである。

【緑】

池邊このみ 氏

いけべ このみ

千葉大学大学院
園芸学研究科教授

- 緑はみるだけでなく、住んでいる人のライフスタイルを変革したり、提案したりすることができるものである。湾岸のライフスタイルをどう捉えるかをターゲットを絞り、提案することが重要。
- ベイエリアに全くホスピタリティがない、人をお迎えするという空間ではない。それが東京の湾岸の一番のネック。海がいっぱいあるのにそれを生かしてない。
- 海側に開かれた建物や緑もホスピタリティであり、何か見られそう、美しい、感動するといった、東京に入ってくる最初の景色として、このエリアしかない、東京のメインとなる景観を造る必要がある。
- まちづくりの中で必要なのはストーリー。コンセプトは統一だが、ストーリーがあって、変化していく。いろいろなシーンやまちづくりが見られるように景観や風景が変化していく。
- ニューヨークは水害後、住みたい都市を目指して、道路も公園も変わった。公園を造るなら、周辺の不動産価値が上がらないと公園の価値はない。また、コロナ中からもレストランがこぞって緑や花を増やしコロナでかえって花や緑が増えた。こういうところを学ぶべき。

[ランドスケープ]

福岡孝則 氏

ふくおか たかのり

東京農業大学地域環境科学部
造園科学科准教授

- ランドスケープアーキテクトは、オープンスペースから都市を考える。東京が世界に誇る水辺のオープンスペースを生かしたライフスタイルは何かを描く必要がある。東京のリバビリティ(住みやすさ)とは何かを考えてほしい。
- 防災・減災、健康・スポーツ、歩きやすいまち、生物多様性、文化的な基盤、質が高い都市の生活、オープンスペースを通じて多くのことが実現可能。多くの人を世界中から呼び込むためには、東京ベイのオープンスペースを戦略的に造っていくことが重要になる。
- 現在のベイエリアは、周辺とのつながりや、人間が居心地が良いとするヒューマンスケールとの違和感が課題。道路は道路、公園は公園としてデザインするのではなく、舟、自転車、人、交通の体系を考えることが、オープンスペースのネットワークをうまくつくることに繋がる。
- NYのウォーターフロントパークは、海面上昇の高潮にも対応でき、湿地を水辺側に配置して水害を減ずるような構造。同時に人々の多様な活動の場も創出している。東京ベイエリアが世界レベルのリバブルシティ(住みやすい都市)を目指すのであれば、戦略的なオープンスペースの創出に加えて、気候変動に適應したグリーンインフラの実装など将来の課題を予見しながら展開することが重要。

[水辺]

アンドリュー・ガウチ 氏

レンドリース株式会社
代表取締役社長兼CEO

- 水辺などのパブリックスペースが、アイデア創出の場としてビジネスや研究の場と一緒に存在することが望ましい。ポストコロナでは、働き方のフレキシビリティとウェルビーイングが重要視される。“行くところは過ごしたいところ”にしなければいけなくなっている。
- 環境サステナビリティは都市再生プロジェクトにとって重要なテーマである。 balan гал ー はオーストラリアで初めてカーボンニュートラル地区となった。また、 balan гал ー の CLT (直交集成材) 構造のオフィスでは、当初入居するテナントがいるか心配したが、結局は入居を希望するテナント候補が多すぎて溢れた。企業の CO₂ 排出削減の目標の理念と合致した。
- 公共交通ネットワークも重要。シドニーや香港で舟運が栄えているのは、人が時間を過ごしたいところに船着き場があるから。必然的に船を選んでいる。
- 地区にストーリーを持たせないと来訪者はいずれ飽きる。本物志向であるべき。2020 オリンピック・パラリンピックのためにつくられた施設周辺で、「スポーツ・イノベーション・ディストリクト」を創出するのはどうか。五輪が開かれたというストーリー性を活かして展開するというのは世界に受けると思う。
- 外資系デベロッパーや海外プロジェクトの経験のあるデベロッパーにプロジェクトを主導させることも必要なのではないか。それにより、グローバルスタンダードをプロジェクトに採り入れることができる。

[エネルギー]

岩船由美子 氏

いわふね ゆみこ

東京大学生産技術研究所
特任教授

- 都市においては必要な需要は認めた上で、非常時も含め、需要をマネジメントすることが重要。
- 省エネと再生可能エネルギーの導入のバランス、経済効率も大事。
- EVは電力系統に貢献するよう、繋げる取組をすべき。蓄電池代わりにDRに有効活用できる、自動運転は特にいい。
- 太陽光発電は市場まかせでは普及が進まない。義務化においては、太陽光発電施設のための屋根貸しもあってもいい。ビジネスモデルとして成立させることが必要。
- 水素活用は、非効率なモデルとならないようにすべき。例えば、トレーラー、水素バスなど自動車は長距離のものにしたり、船の動力として利用するなど。

[観光]

小島規美江 氏

こじま きみえ

JTB総合研究所
MICE戦略室長

- オンライン会議は、これまで参加できなかった人の参加が見込める一方で、知財の流出など新たに懸念される点も生まれている。講演者は「誰にでも話せる内容」と、オンラインであっても「クローズなメンバーだけに情報を開示する」場合とを使い分ける可能性がある。主催者や開催都市はそのような講演者のニーズに応えるインフラを整える必要がある。
- オンライン会議は、これまで参加できなかった人の参加が見込める一方で、知財の流出など新たに懸念される点も生まれている。講演者は「誰にでも話せる内容」と、オンラインであっても「クローズなメンバーだけに情報を開示する」場合とを使い分ける可能性がある。主催者や開催都市はそのような講演者のニーズに応えるインフラを整える必要がある。
- 時差問題も非常に大きい。国際的なMICEは欧米間(例:ロンドンで開催するオンライン国際会議がNYやロスの活動時間に合わせて開催する)における時間帯をメインに開催する傾向にある。日本を含むアジアパシフィック地域においては参加しにくい深夜開催が増えることを意味する。あらゆる学術・産業分野で最新情報を入手できないような事態は避けなければならない。また東京で開催する場合には、同様のハードル(深夜となる欧米の参加者が減ってしまう。)があることを理解しておく必要がある。
- ポストコロナでは、量より質が問われる。来場者数など会議の規模だけが評価ではなくなり、これまで以上に、目的に対する適切な開催手法や環境など、参加者のニーズに添えていく必要がある。
- コロナ後も交流の重要性は変わらないと考えられるが、海外ではより国や都市の政策と連動したMICEの開催が優先される傾向にある。例として、シンガポールでは、自国の強化したい産業の発展に寄与する会議には開催支援の内容を厚くするケースもある。
- MICE誘致においては、都市として選ばれる理由を拡充していくことも重要。キャッシュレスの徹底、水準の高いホテルやレストラン、移動手段も含め、動きをトータルで考えた施設整備など、参加者や主催者にどれだけフレンドリーな環境を提供できるかが大切ではないか。

附属資料

東京ベイeSGまちづくり戦略

パブリックコメント等

本計画の策定にあたっては、都民や企業の皆様、区市町村等の幅広い関係者が、世代を超えて内容を共有できるものとするため、「東京ベイeSGまちづくり戦略(ドラフト)」を令和3年11月25日に公表し、広く関係者への意見募集等を実施しました。

また、令和3年4月1日に施行された「東京都子ども基本条例」では、子供の意見表明の機会を充実させ、意見が適切に施策に反映されることなどを実現するために必要な環境の整備を図ることとしており、まちづくり戦略の策定に当たっては、子供の参加を通じて、子供目線に立ったまちづくりを推進する観点から、ベイエリア内の小学生、中学生、高校生を対象としてWebアンケートを実施しました。

さらに、まちづくり戦略の推進に当たっては、関係団体との連携が不可欠となることから、このうち、経済、都市開発、港湾運送に係る民間事業者の立場からの意見を伺いました。

パブリックコメント

実施時期:令和3年11月25日(木)～令和3年12月24日(金)

実施方法:東京都ホームページによる公募

実施概要:広く都民等の皆様からの意見を反映するために、東京都にお住まいの方を対象に意見を募集

受付総数:37通115件

小中学生・高校生アンケート

実施時期:令和3年11月25日(木)～令和3年12月24日(金)

実施方法:東京都ホームページによる公募

実施概要:2040年代の社会の中核を担う世代の意見を反映するため、中央区・港区・江東区・品川区・大田区・江戸川区に居住または通学の小中学生、高校生を対象として意見を募集

受付総数:小中学生432件／高校生162件

策定に当たり意見を伺った関連団体

実施時期:令和3年12月

実施概要:ベイエリアの都市づくり、港湾物流に関して豊富な知識・見識を有する団体と意見交換

パブリックコメントにおける意見

なるべくたくさんの御意見をご紹介するため、
主旨の重複を避けた上、概要を掲載しております

御意見に対する都の考え方については、東京都都市整備局ホームページに掲載しています。
<https://www.toshiseibi.metro.tokyo.lg.jp/seisaku/esg/index.html>

2040年代のベイエリアの都市空間のイメージ・ベイエリアの将来像

真のダイバーシティを考えるべき。治安維持にテクノロジーを活用し、排除される人がいないまちにしたい。	2040年になれば空飛ぶキッチンカー等が発達し、ドローンが配送が実現される。	イメージには、現実感がない印象を受けた。
海面上昇、大雨の激甚化を考慮して湾岸地区の再開発は一度考え直すべきだ。	通勤にストレスがなく、災害に強いこと、開放感と活気がほしい。	300m以上の超高層ビルがたくさん建つ都市づくりをして欲しい。
スマートコンストラクション(遠隔操作技術等)を将来イメージに反映してほしい。	臨海副都心エリアのまちづくりは、東京のためでなく、首都圏、ひいては国のため。	そんなに規制緩和して投資を集めて、どうするのか。今の東京のままだと、将来本当にダメになる。

バックキャストで描くベイエリアの戦略

一 [戦略1]

循環型社会のモデル地区を目指してはどうか。例えば、都市型農業や養殖、地産地消の飲食店。	駐車場や無料のシャワーなどが設置されれば、SUPなどアクティブなスポーツを愛する人も集まる。	水辺の良さが生かし切れていない。水面に降りられる場所や、浜のある場所の増設を願う。
臨海副都心は広幅員道路の空間構成を整序していく必要がある。	のんびり散歩できる様な穏やかな親水空間が欲しい。カミソリ堤防からの脱却と水上交通の発達をお願いしたい。	緑が少ないので、大規模な公園を将来に残してほしい。強風対策になる本格的な森レベルの緑を整備してほしい。
ウォーターフロントの集客は水質が大事である。水質改善の具体策、合流改善、処理水質の向上等を記載すべき。	単にグリーンインフラを整備するだけでなく、育った木を周辺の木造ビル群に利用する。	海上公園も人が回遊しやすく、各施設等との一体的な利活用による賑わいのある空間へ再編していく。
水際の多くがアクセス性や賑わいに課題のある歩道や特徴のない公園。優先順位をつけた拠点整備が必要。	緑被率・緑化率の下限を定めるなど強力に自然と融合した未来へと繋ぐ緑化をしてほしい。	これ以上の高い建物は望まず、風、緑と水に囲まれ、自然と身体を動かしたくなる環境(well being)

一 [戦略2]

東京都には木密地域をはじめとして、地域の問題を解決するための種地としてもベイエリアを活用。	フードロス対策で、期限が近い防災備蓄食料品を調理するレストランをつくる。	自立分散型発電施設、蓄電池やCGSを中心としたエネルギーの面的利用で地域全体のエネルギーの自立化が実現。
青海・台場は多数の来街者が訪れることを踏まえ、防災拠点として先導的に整備すべきではないか。	防災対策をより具体的に示すべきである。地下トンネル、災害時も機能する舟運物流拠点・避難拠点を整備。	防災機能と魅力的な水辺空間をどのように両立させるのか、より進んだ議論が必要。

パブリックコメントにおける意見

一 [戦略3]

輸送用ドローンや垂直離着陸飛行機の運用を考慮したまちづくり戦略がない。	先端技術は、来街者や居住者が求める生活やサービスを想定して、導入することが重要。	ハードがまちの魅力度を高めるのは理解するが、サステナビリティの視点が欠けている。
自然エネルギーファーストへ、自然との共存。	メガフロートは、新たな発想で空間を創る実証実験に適する場所・空間になる。	再エネの安定性確保や防災等の側面から、水素ガスの整備や大規模エネルギー貯蔵を試みてほしい。
陸上の交通混雑等をA1が考慮し、最適な場所に自動で橋がかかる動く橋・メガフロートを開発する。	養殖技術研究所を創設し、飲食店の設置や海産物の商品化を行い、江戸前再生に取組むエリアにする。	空港の広大な敷地・建物を活用し、再エネ導入・CO2削減の研究開発の拠点とする。
水素活用が脱炭素のエネルギー源の軸となる。合成メタンメタネーションの活用も提案する。	実証実験の場では、居心地よい空間、交通・輸送、サービス等、新しいまちづくりの検討が可能。	中央防波堤エリアで東京の食を支える農業・水産業の高度生産工場や技術開発・研究拠点を整備する。

一 [戦略4]

歩きながら気軽に立ち寄れる路面店が増えてほしい。店舗の区画ももう少し細かいエリアがあるとよい。	都市開発について、メリハリや集中、効率化を念頭にゾーニング、計画を進めていくべきと考える。	台場、青海へのIR誘致を明記してほしい。臨海地区の住民としても、青海地区の発展は重要視している。
水辺に向かって路面店が並んでいるようなところがあると、景色も良く、街歩きがもっと楽しくなる。	機能を継続しながら円滑に都市更新ができるよう、常に建築敷地と同規模の公園を確保する。	人を集めるには安全性や治安も不可欠であり、ライトアップなど、夜間の明るさや雰囲気づくりが重要。
果樹植栽や水耕栽培・養殖等を展開し、産業と一体となった景観形成を目指せると良い。	フレキシブルに用途変更が可能な建築を開発し、地域課題に柔軟に対応する公共公益施設を整備する。	規制緩和や公園・宅地区域の変更、地区計画の見直しなど、民間事業者が活用しやすい誘導策が必要。

一 [戦略5]

臨海地下鉄・羽田アクセス線・品川地下鉄、BRT拡充、舟運の活性化を早期に実現して欲しい。	臨海副都心では、鉄道駅から各施設、各施設を相互に繋ぐ地区内交通が必要である。	品川との交通軸は不可欠である。鉄道やロープウェイ、環状4号線の延伸、次世代モビリティに期待する。
外国からの訪問者にもわかりやすいバスやBRT、自転車の利用の案内もあるとよい。	歩道の拡張や自転車道の整備、車の自動運転化や、空飛ぶ車の実用化により、地上の交通量を削減してほしい。	安全な舟運事業のため、レジャー用の水域を定め、海上交通の標識の統一が必要。
舟運を移動手段とするため、通勤・通学などの利用を想定したまちづくりとの連携が必要だ。	地上以外に、空の乗り物を充実して欲しい。ヘリや空のモビリティが飛び交う未来都市を期待。	竹芝桟橋などは、島嶼部との交流も活かしたまちづくりに期待する。
各移動手段の結合・接続により、まちの回遊性が高まり、まちの訴求力が高まる。	水陸両用自動運転バス等を導入、路線網を張り巡らして、人にやさしい移動手段の充実を目指す。	防災にも重要である東京ヘリポートも活かしたまちづくりを期待する。
浮き沈みするような線路を用いた海上列車を整備し、世界から注目される技術を発信する未来都市とする。	新空港線（蒲蒲線）も推進して欲しい。	羽田空港の機能強化による交流人口増の施策や空港線の沿線整備も重要。「ものづくりの町」を活性化してほしい。

個別の拠点の将来像の方向性

[臨海副都心] 明快なコンセプトが欲しい。非日常を味わえる場、世界に誇れる先導的なまちではないか。	[台場・青海] 世界に通じる新たな東京の水辺・都市景観を創出する。既成の用途に拘らない、柔軟な場づくり。	[台場・青海] With/Postコロナ時代を見据え、都心エリア唯一無二の親水空間をいかしたまちづくりをしてほしい。
[台場・青海] スタートアップの集積や技術のショーケース化のため、都心と違う魅力、大胆な規制緩和を打ち出す。	[有明] アーバンスポーツは、明るく、自由な雰囲気のみちと調和する。	[有明] ビッグサイト等展示場の方向性の検討を盛り込んでほしい。
[有明] まちの将来像やアーバンスポーツパークや周辺施設など、住民と意見交換を行ってほしい。	[台場・豊洲] 賑わいだけでなく、緑の政策、交通基盤等の集積に取り組む必要がある。	[晴海] 産業の遺産を活用した商業施設の開発で魅力的な街に生まれ変わらと思う。
[大井] 物流の拠点だが慢性的に渋滞している。施設の機能更新のため、渋滞対策の環境整備が必要。	[品川・天王洲] リニア開業に合わせた品川・天王洲エリアの高度化、拠点化の促進も重要である。	[品川・天王洲] 品川浦・旧東海道地区では、伝統・文化や品川浦を活かしたまちづくりが進められている。
[新木場] 木の伝統文化から発展する資源循環の先進技術のみちであることを追加してほしい。	[新木場] 新木場駅は利便性は高いが、駅周辺利便施設は十分でない。	[新木場] 現在、ライフサイエンス等の新産業の立地が見られる。新産業の施設の立地を検討してほしい。

東京ベイeSGまちづくり戦略の進め方

水辺、公園のリデザインや規制緩和、ふ頭の利活用等について、地区特性に応じ、具体的な方向性が必要。	2040年におけるライフスタイルを実現するため、自由な発想の下での検討が必要。	国や大企業の都市計画がアジャイルに実行可能な人工都市にする。
魅力ある水辺空間づくりや、防災への取組、デジタル等の先端技術の活用は、公民が連携して進める必要がある。	インフラの早期実現に向け、周辺自治体との連携についても触れるべきである。	都の役割、生活者としての都民の関わりを説明してほしい。
臨海副都心は、容積緩和というインセンティブが働きにくい。民間誘導の具体策まで踏み込んだ検討が必要。	上位計画の改定、規制緩和等を総合的に進めるため、ステークホルダの議論の場や実行ステップの提示も必要。	公園・未利用地等の活用に向け、各分野への横断的な取組、既存の枠組みの見直しや実行体制等の検討が必要。

小中学生アンケート 回答結果

小中学生アンケートでは以下の回答を頂きました。

1 未来のベイエリアをえがいてみよう!

あなたが大人になったとき、未来のベイエリアはどうなっていてほしいですか。『3つ』選んでお答えください



みんなが海や生き物などの自然を大事にしている



誰もが楽しく居心地がよい場所がある



大きな台風などによる被害を防いでいる



あたらしい技術がどんどん進歩している



様々なスポーツや遊びを楽しめる



きれいなまちになっている



船や空飛ぶクルマなどで移動できる



みんなが歴史、文化を大切にしている

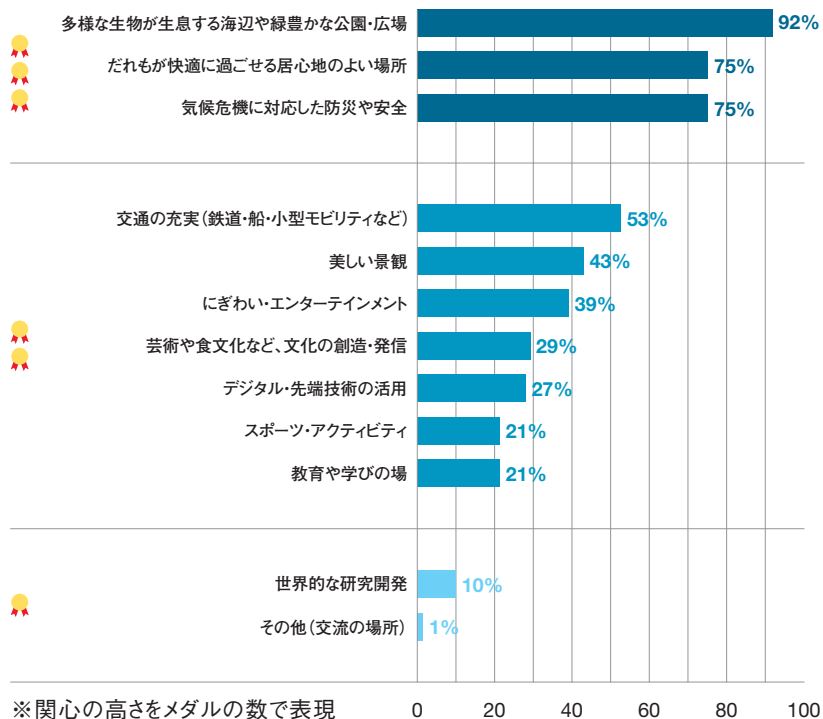


※関心の高さをメダルの数で表現

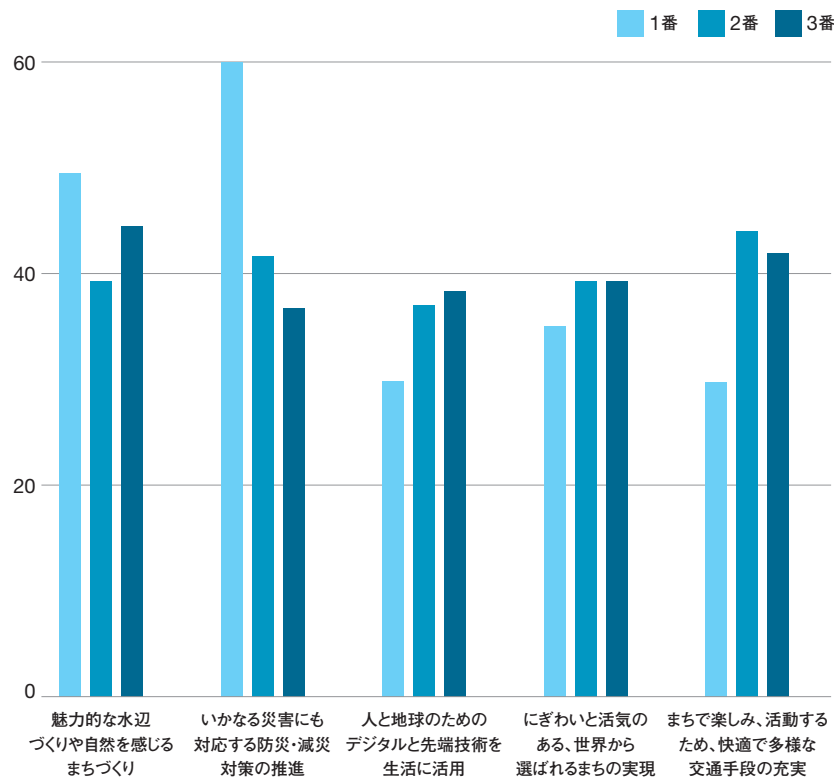
高校生アンケート 回答結果

高校生アンケートでは以下の回答を頂きました。

1 あなたが30代、40代になったとき、
 バイエリアのまちに欲しいもの・大切だと思うことを
 下記から3つ選んでお答えください



2 東京ベイeSGまちづくり戦略(ドラフト)で、
 重要だと考える戦略を重要なものから
 順に『3つ』お答えください。



東京ベイeSGまちづくり戦略

関係団体の意見の概要

- 都内の多くの企業は、デジタル技術活用やカーボンニュートラルのまちづくりに関心を寄せており、ベイエリアでのモデル都市の早期形成に期待している。
- 日本各地で進められている個別の実証実験がひとつに組み合わせられたとき、まちにどのような利便性が生まれるのかイメージするのが難しい、という企業の声が寄せられている。スマートシティのモデル都市を完成させ、都民・企業に広く認知していただくことが必要である。
- 都民・企業の賛同・協力を得て、その実装と成果を早く、都内各地域に展開していくことが重要である。
- 安全・安心なまちづくりのモデルとなる取組はすべて実施してほしい。風水害だけでなく、地震対策についても最先端の取組を実施し、その成果を「見える化」していくべきである。
- まちづくり戦略を東京の経済活性化に最大限生かすためには、まちのにぎわい・交流を促進し、その成果を波及させるインフラ整備の推進が極めて重要である。特に、東京ベイエリアと都心や空港、さらに各地とをつなぐ陸・海・空の交通・物流ネットワークの整備は、スピード感をもって進めてほしい。
- より良いまちづくりへの原動力は、我がまちに誇りや愛着、共感を持つ人であり、郷土愛の醸成は大切である。歴史文化の教育などにより、郷土愛を育てていくことが重要である。

一般社団法人 不動産協会

- 外から見たときに、東京は勿論、世界のなかでのベイエリアの独自性、魅力の見える化が重要である。
- 東京のベイエリアにも、例えば、シドニーの海沿いのように、ここは違うという色が必要ではないか。雑多な感じも東京の魅力ではあるが、アイコンとなる景観、きれいな人の流れや緑など、屋外のまちづくりが大事になる。コロナを経たまちづくりにも通じる。
- 官民連携して、トータルでまちづくりを考えられるような委員会の設置や、公共用地を含めて民間から企画提案できるような仕組みを作ると、創造的なまちづくりが期待できる。まちづくりのステージを進めるステップや、実現に向けたストーリーづくりにも寄与すると思われる。
- 脱炭素の推進の観点では、先行的なモデル地区で木造ビルなど脱炭素効果を重視した建築物を設けると、当該地区が推進の先導的役割を担うことができるのではないかと。
- 日本は安全なまちであることが魅力の一つである。地震があるとしても、技術でカバーできていると言えるまちづくりを行えば、世界からも注目される都市となるのではないかと。
- 人の集積が経済効果をもたらすため、シンガポールやシカゴのような好例を研究の上、民間を使って人を集める仕組みを設けることが大事で、人が集まれば投資の誘導や、DXの普及にも効果が生まれるのではないかと。
- 用途の柔軟化が大事である。新しいまちづくりの姿がニーズに対応して端的に現れるとよい。住宅も子育てや教育にも配慮を施したSAや賃貸など、多様なニーズへの対応が求められ、これらに対応するためにも用途の柔軟化が必要であり、加えて、研究施設やグリーンファイナンスなどの国際競争力のある業務機能を展開するには、デジタル化や、グリーンの取り組みなどが必要不可欠ではないかと。

一般財団法人 港運協会

- 東京港は、国際都市東京の中心地に近接する港であり、このような港は世界的にも珍しい。
- 今後とも、人々の暮らしを支え、日本経済を牽引する重要な物流機能を担っていかねばならないということ、多くの方々にご理解いただきたい。
- 東京港を取り巻く情勢は変化しており、「東京港第9次改訂港湾計画に向けた長期構想」において、東京港の物流、防災、環境、さらに観光・水辺のまちづくりについて、あるべき姿やその実現に向けた取組が示されたことから、東京ベイeSGまちづくり戦略は、この長期構想と整合を図り、進めてほしい。
- この「東京ベイeSGまちづくり戦略」では、東京港の保有するポテンシャルを活かして、資源循環といった視点からの活用についてもご検討願いたい。
- 「東京ベイeSGまちづくり戦略」で示された、緑や水辺と融合した美しい街ができることで、現場で働く人々のステータスやモチベーションも上がるだろう。
- 東京ベイエリアを、現場で働く人々の意欲が上がり、楽しく働ける街にしていきたい。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



附属資料

SDGsの目線で 政策を展開する

平成27(2015)年9月の国連サミットにおいて、先進国を含む国際社会全体の開発目標として、2030年を期限とする包括的な17の目標、いわゆるSDGs(持続可能な開発目標・Sustainable Development Goals)が採択された。

地球規模で持続可能性に関する課題に直面する中、世界共通で取り組むSDGsの価値について、コロナ禍を経て改めて認識が広がっている。様々な主体とともに取組を進めることで、コロナ禍を乗り越え、持続的で強靱な社会を実現していかなければならない。

SDGsの目標達成に当たっては、「都市」の時代と呼ばれる現代において、都市機能が高度に集積した東京をはじめとする大都市が果たす役割は大きい。

SDGsという国際標準の目線に立って、本戦略に掲げた取組を強力に推進することで、豊かな都市環境を創出し、持続可能な都市・東京をリードするペリエリアを実現していくとともに、地球の持続可能性に貢献していく。

	3 すべての人に健康と福祉を	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	17 パートナーシップで目標を達成しよう
戦略 1 質の高い緑と魅力的な水辺空間の形成		●					●		●	●	●	
戦略 2 リスクにスマートに対応する防災減災対策の推進							●		●			●
戦略 3 ひとと地球のためのデジタルと先端技術をまちの隅々まで実装			●		●		●	●	●			
戦略 4 にぎわい・交流・イノベーションを生む世界から選ばれるまちの実現	●				●	●	●					
戦略 5 まちの魅力や活動の基盤となる快適で多様な移動手段の充実				●	●	●	●					

附属資料

東京2020大会の成果を 都市の発展につなげる



TOKYO FORWARD

	大会の「危機管理」の取組をレガシーとして、感染症・震災・風水害など、あらゆる災害に備えた強靱な都市を実現する	大会で得たスポーツとのつながりを日常に溶け込ませ、「スポーツフィールド・東京」を実現する	大会での“気づき”を一人ひとりのアクションへとつなげ、多様な人々が共に暮らし、互いを認め合う「インクルーシブシティ東京」を実現する	大会で広がった東京の魅力がレガシーとしてアート・伝統芸能・食などの強みを生かし何度でも訪れたくなる東京へと進化	参画による各自の行動変容と先進的な取組をモデルに、CO ₂ 排出量実質ゼロの「ゼロエミッション東京」を実現	大会で活用された最先端テクノロジーを都市に実装し都民が質の高い生活を送る「スマート東京」を実現する	誰もが安全で快適に過ごし、いきいきと生活できる都市へ
戦略1 質の高い緑と魅力的な水辺空間の形成		●					
戦略2 リスクにスマートに対応する防災減災対策の推進	●						●
戦略3 ひとと地球のためのデジタルと先端技術をまちの隅々まで実装					●	●	
戦略4 にぎわい・交流・イノベーションを生む世界から選ばれるまちの実現		●	●	●			
戦略5 まちの魅力や活動の基盤となる快適で多様な移動手段の充実		●					●

附属資料

ゼロエミッション東京を目指し、地球環境と調和を図り、持続的に発展させていく

気候危機が一層深刻化する中、世界は、2050年CO₂排出実質ゼロという共通のゴールに向けて、急速に歩みを進めている。

2050年ゼロエミッションの実現に向けては、2030年までの行動が極めて重要である。

東京都は、2030年までに温室効果ガス排出量を50%削減(2000年比)する、「カーボンハーフ」を表明するとともに、この実現に向けて、2019年に策定・公表した「ゼロエミッション東京戦略」をアップデートし、取組を加速させている。






ベイエリアの都市づくりにおいても、「ゼロエミッション東京戦略」で掲げる6分野14政策を踏まえ、気候変動を食い止める「緩和策」と、既に起こり始めている影響に備える「適応策」を総合的に推進し、ゼロエミッションを実現していく。

ゼロエミッション東京戦略に示す戦略の柱

I	エネルギーセクター	1.再生可能エネルギーの基幹エネルギー化 2.水素エネルギーの普及拡大	
II	都市インフラセクター (建築物編)	3.ゼロエミッションビルの拡大	
III	都市インフラセクター (運輸編)	4.ゼロエミッションビークルの普及促進	ZEV普及プログラム
IV	資源・産業セクター	5.3Rの推進 6.プラスチック対策 7.食品ロス対策 8.フロン対策	プラスチック削減プログラム 食品ロス削減推進計画
V	気候変動適応セクター	9.適応策の強化	気候変動適応計画
VI	共感と協働 -エンゲージメント&インクルージョン-	10.多様な主体と連携したムーブメントと社会システムの変革 11.区市町村との連携強化 12.都庁の率先行動 13.世界諸都市等との連携強化 14.サステナブルファイナンスの推進	ゼロエミ都庁行動計画

ゼロエミッション東京の実現

ゼロエミッション東京の実現に向けた取組

	I エネルギーセクター (1,2) 	II 都市インフラセクター(建築物編) (3) 	III 都市インフラセクター(運輸編) (4) 	IV 資源・産業セクター (5,6) 	V 気候変動適応セクター (9) 
戦略1 質の高い緑と魅力的な水辺空間の形成					●
戦略2 リスクにスマートに対応する防災減災対策の推進					●
戦略3 ひとと地球のためのデジタルと先端技術をまちの隅々まで実装	●	●	●	●	●
戦略4 にぎわい・交流・イノベーションを生む世界から選ばれるまちの実現					
戦略5 まちの魅力や活動の基盤となる快適で多様な移動手段の充実			●		

開発誘導や拠点整備における、ゼロエミッションに向けた先端技術の実装や気候変動適応策を含む取組は、戦略1から3で記載しています。





東京ベイeSGまちづくり戦略2022

Tokyo Bay eSG Urban Development Strategy 2022

令和4(2022)年3月発行

編集・発行:東京都都市整備局都市づくり政策部開発企画課

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話:03(5388)3245

東京都ホームページ:<https://www.metro.tokyo.lg.jp/>

